



サステナビリティレポート 2024



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

株式会社 不二家

〒112-0012 東京都文京区大塚 2-15-6

ウェブサイト <https://www.fujiya-peko.co.jp/>

■お問い合わせについて

お便りの場合：〒112-0012 東京都文京区大塚2-15-6 株式会社不二家 広報IR部
Eメールの場合：不二家ウェブサイト内のお問い合わせ専用フォーム内をご利用ください。

本報告書記載記事の無断転載・複製を禁じます。 © FUJIYA CO., LTD.

目次

イントロダクション

- 03 不二家のあゆみ
- 05 At a Glance
- 07 トップメッセージ

価値創造

- 09 価値創造プロセス

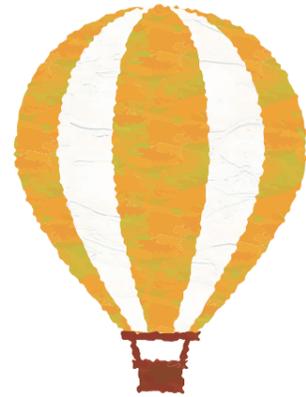
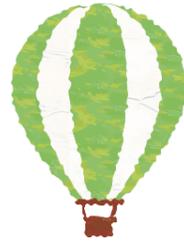
サステナビリティ

- 12 不二家が目指すサステナビリティ経営
不二家サステナビリティ方針と4つの柱
サステナビリティ推進体制
- 14 地球環境保全に対する配慮
環境方針
気候変動への対応
TCFDに基づく情報開示
食品ロス・廃棄物削減への取り組み
容器包装での環境負荷低減
不二家ファミリー文化研究所
環境データ(マテリアルバランス)
- 23 事業活動における人権の尊重
人権尊重に向けた取り組み
社内に対する取り組み
サプライチェーンに対する取り組み
- 27 従業員の健康向上・労働環境改善と公平な処遇
人材に対する考え方
人材育成に対する考え方
職場環境に対する考え方
DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)
柔軟な働き方・両立支援
労働安全・健康経営
防災への取り組み
労使関係
- 35 地域社会との共存・共栄・調和
食品安全品質方針
品質保証システム
お客様の声
不二家食品安全の日教育
社会貢献活動

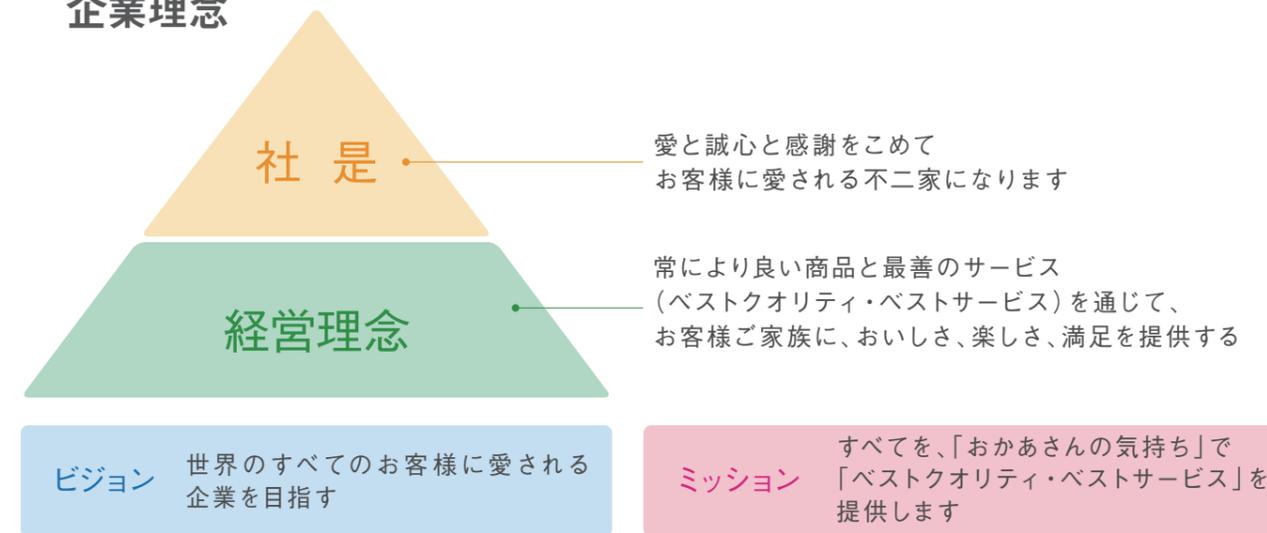
コーポレート・ガバナンス

- 43 コーポレート・ガバナンス
コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方
リスクマネジメント体制
コンプライアンス
役員一覧

企業情報



企業理念



藤井林右衛門の想い



不二家(ふじや)という屋号は、1910年(明治43年)、創業者・藤井林右衛門(ふじい りんえもん)が、外国人居留地に近い横浜・元町に、小さな洋菓子店を開いたときに名づけられました。自身の「藤井」姓や、外国人にも良く知られた日本一の山である「富士山」(不二山)にちなむとともに、「不二」という言葉には「二つとない存在でありたい」という、25歳の林右衛門の願いと気概が込められていました。当時まだ横浜でも珍しかった洋菓子が、これからは日本でも人気が出てくるだろうと見込んでの開業でした。林右衛門が切り開いた不二家の歴史は、まさに二つとないものでした。

良質な材料を使っているながら価格は手頃。「常によりよい製品、サービス」「お客あつてのわれわれだ」。口下手だった林右衛門が珍しく言い切ってはばからないことでした。戦前戦後を通して、クリスマスやひなまつりにケーキを売り込むセールを企画したり、ペコちゃん人形を店頭飾ったりと、常に新しいことに挑戦を続け、不二家は日本中をとよめかせるような事業を次々と展開しました。

林右衛門の人生はすべてが順風満帆だったわけではありません。関東大震災では、元町店、伊勢佐木町店、そして開店してひと月足らずの銀座店が全焼。第二次世界大戦では、多くの店舗や工場を、従業員を失いました。それでもあきらめずに、戦後、焼け残ったボイラーで沼津にあった工場を再建。それが後に「ママの味」「ミルクィ」の誕生につながります。

林右衛門が送り出した不二家のお菓子は、今も家族の団らんやお祝いの席にのびります。二つとない存在でありたい。洋菓子を日本に広めたい。お菓子で世の中を幸せにしたい。

明治の青年の夢は、100年を越えて今も脈々と不二家の中に息づいているのです。



銀座の不二家の店舗
(1958年頃)



戦前の銀座店の
ソーダ・ファウンテンのインテリアカウンター



1920年頃
家族と(左端が林右衛門)



ミルクィ
(1950年代のパッケージ)

不二家のあゆみ

1910 1922 1935 1950 1951 1962

創業

不二家の歴史は1910年、横浜・元町に誕生した第1号店から始まります。横浜に在留外国人が年々増えている状況を見て、洋菓子づくりに目をつけた林右衛門。洋菓子職人との縁もあり、25歳の誕生日に元町2丁目に西洋菓子店を開きました。林右衛門は、西洋人の家庭を一軒一軒まわり、試食してもらいながら販路を広げていきました。



©新聞コレクション

ショートケーキ発売

1922(大正11)年に横浜・伊勢佐木町に贅を尽くした内装の2号店がオープン。ここで発売したのがショートケーキです。林右衛門がアメリカで見た、ビスケットのような生地のショートケーキを日本人の口に合うようにアレンジ。フランスの技術も取り入れながら、カステラに近い生地を生クリームで飾り付けたケーキを「ショートケーキ」として売り出しました。



「ハートチョコレート」発売



※画像は1959年のもの

ペコちゃん誕生

ペコちゃんは1950年に、不二家洋菓子店の店頭人形としてデビューしました。戦後の荒廃した街にうるおいを与えたいと考えていた当時の2代目社長・藤井誠司が、日劇の舞台上に登場した張り子の動物を見た時、「ああいう張り子を不二家の店頭においてみてはどうだろう、道行く人の目を引くのではないか」と思いついたのが始まりでした。



©川原コレクション

銀座6丁目店に設置して以来、ペコちゃんは日本中の街角に立ち続けています。

「ミルキー」発売

第二次世界大戦後、戦災で唯一焼け残ったボイラー1基を手がかりに、不二家は水アメと練乳の製造を始めました。この2つの材料を手にした林右衛門は、栄養価が高く、母親が安心して与えられる新しいお菓子を開発しようと、丸2年の試行錯誤の末、練乳の配合を思い切って増やし、乳味豊かでまろやかな味を実現。「牛乳そのままの味を生かした」というイメージから、「ミルキー」と名付け、パッケージに「ペコちゃん」と「ポコちゃん」が描かれました。



「ルックチョコレート」発売



1963 1964 1968 1984 1994 2020 現在

フランチャイズ第1号 京都伏見店開店

当時、日本ではまだ「フランチャイズ」という言葉がほとんど知られていませんでした。1963年、不二家ファミリー・チェーンはフランチャイズ・システムの先駆けとして導入され、5年後には全国でフランチャイズ店舗数100店舗を達成。システム導入以来、着実に加盟店を増加させてきた不二家は、1982年、日本フランチャイズチェーン協会より通商産業大臣賞の表彰を受けました。



「ネクター」発売



「ホームパイ」発売



「カントリーマアム」発売

当時アメリカではソフトクッキーが流行り、街には店頭で焼き立てのクッキーを販売するクッキーショップが多く出現していました。アメリカの田舎に住むお母さんが自分の子供たちのために作ってあげる焼き立ての手作りクッキーをイメージし、外はサクリ、中はしっとりとした「カントリーマアム」を発売しました。



「ペコちゃんのほっぺ」発売



「カントリーマアムチョコまみれ」発売

チョコクッキー+チョコチップ+チョコ掛けの、チョコにまみれたカントリーマアム。思わず写真を撮りSNSにアップしたくなるような、シュールなキャラクター「まみれさん」がパッケージに描かれました。2022年には、日本食糧新聞社「第40回食品ヒット大賞」にて優秀ヒット賞を受賞。さまざまな姉妹品も登場し、おいしく遊び心ある「まみれワールド」を展開しています。



不二家のこれから

不二家は創業時より商品・サービスを通して「幸せな記憶」「愛されている実感」「人と人との繋がり」を提供してきました。これからもお菓子の可能性を追求しながら、お客様に、従業員に、社会に“ワクワク”を届けてまいります。



不二家年表

1910	藤井林右衛門が横浜・元町に洋菓子店を開店	1965	東京、大阪、名古屋の各証券取引市場第一部に株式上場	2003	不二家ファミリー文化研究所設立	2019	不二家サンヨー株式会社が不二家飲料果実株式会社へ社名変更
1922	ショートケーキ発売	1968	ホームパイ発売	2004	不二家(杭州)食品有限公司設立	2020	カントリーマアムチョコまみれ発売
1930	合名会社不二家設立(出資金10万円)	1972	株式会社不二家東北(旧:山交フードサービス)設立	2007 1月	消費期限切れ原料使用に端を発する一連の問題により、生産・販売がほぼ停止する	2021	ミルキー発売70周年
1935	ハートチョコレート発売	1973	株式会社不二家システムセンター設立	2月	AIBフードセーフティの取り組み開始		株式会社スイートガーデンが株式会社不二家神戸へ社名変更
1938	6月 株式会社第二不二家設立(資本金20万円) 9月 合名会社不二家を合併(資本金60万円) 12月 株式会社第二不二家の商号を、株式会社不二家と改称	1974	不二家サンヨー株式会社設立	3月	山崎製パン株式会社と業務資本提携を締結し、停止していた生産・販売が再開される		株式会社不二家フードサービスを吸収合併
1950	ペコちゃん誕生	1975	レモンスカッシュ発売	2008 1月	「不二家食品安全の日」制定	2022	ショートケーキ発売100周年
1951	ミルキー発売 ペコちゃんのボーイフレンドとしてポコちゃん誕生	1978	株式会社不二家フードサービス(旧:ロードサイドレストラン)設立	7月	本店所在地を東京都文京区に変更する		東証一部からプライム市場へ移行
1954	ポップキャンディ発売	1984	カントリーマアム発売	11月	新たな第三者割当増資により、山崎製パン株式会社の子会社となる		不二家飲料果実株式会社が株式会社不二家福島へ社名変更
1962	東京、大阪、名古屋の各証券取引所市場第二部に株式上場 ルックチョコレート発売 不二家乳業株式会社設立	1989	アンパンマン商品シリーズ発売 株式会社ダロワイヨジャポン設立	2010	不二家創業100周年	2023	不二家ベトナム設立
1963	フランチャイズ第1号店 京都伏見店開店	1994	ペコちゃんのほっぺ発売	2014	株式会社スイートガーデンの株式を取得(子会社化)		ホームパイチョコだけ発売
1964	ネクター発売	1998	ペコちゃん・ポコちゃんの人形が立体商標として特許庁より認められる	2018	銀座数寄屋橋の不二家広告塔を映像が流れる「ペコちゃんビジョン」にリニューアル		サステナビリティ方針策定
		1999	ミニミニペコちゃん発売				冷凍スイーツ自動販売機「FUJIYA CAKE's STAND」設置開始
							ショコラウェアファース発売

At a Glance

不二家グループは、主に洋菓子事業、外食事業、国内製菓事業、飲料事業に加え、中国を中心に海外でも事業を展開しています。洋菓子事業は100年以上続く不二家創業の事業です。製菓事業においては、ペコちゃんで親しまれている「ミルキー」や「カントリーマアム」など、多くのロングセラー商品を提供しています。今後は、中国に加え、ベトナムでの事業の発展、また輸出の拡大を進め、不二家のビジョンである「世界のすべてのお客様に愛される企業を目指す」の達成を推進します。

◆2023年度 業績サマリー



売上高

105,534百万円



営業利益

1,374百万円



経常利益

2,104百万円



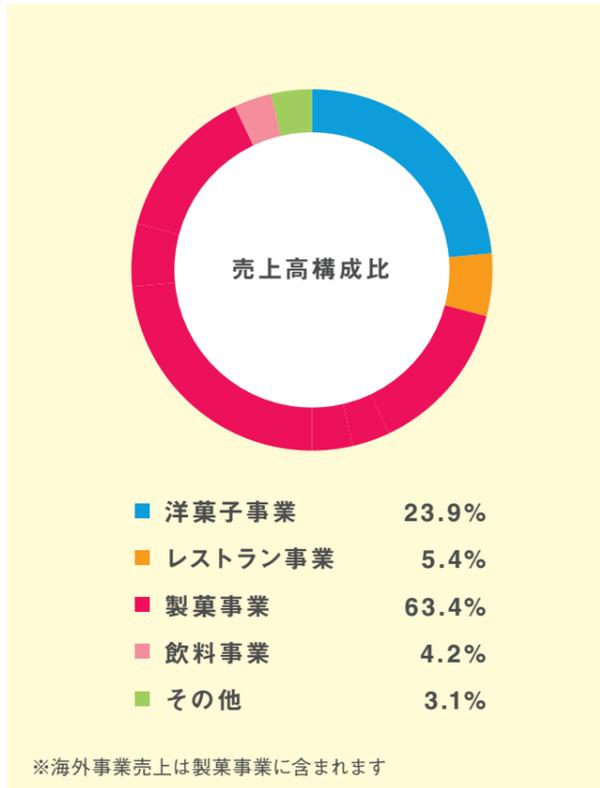
当期純利益

969百万円



ROE

1.7%



◆国内事業

事業	概要
<p>洋菓子</p>	明治時代から100年以上続く不二家創業の事業です。「ショートケーキ」「シュークリーム」「ペコちゃんのほっぺ」などの洋菓子の製造販売と「不二家洋菓子店」の運営を行っています。日常のおやつからお誕生日のお祝いのケーキ、ギフト菓子とさまざまなシーンを彩る商品を手がけています。
<p>外食</p>	洋菓子のテイクアウトを併設したファミリー向けレストラン「不二家レストラン」を中心に、「アンパンマンレストラン」「アンパンマン&ペコズキッチン」、宮崎牛専門店の鉄板焼き業態「銀座みやちく」など、複数の業態を運営しています。
<p>製菓</p>	「ミルキー」「ルック」「カントリーマアム」「ホームパイ」「チョコまみれ」に代表されるキャンディやチョコレート、クッキーなどのお菓子の製造、卸売を行っています。多くのロングセラーブランドやヒット商品を持ち、幅広い販売チャネルで小さなお子様から大人まですべてのお客様に愛される商品を届けています。
<p>飲料</p>	「ネクター」「レモンスカッシュ」などの個性ある缶、PETボトル、チルド飲料の卸売を行っています。

◆海外事業

中国にある不二家(杭州)食品有限公司をメインに、ベトナム(FUJIYA VIETNAM CO.,LTD)の事業展開を進めています。ベトナムには2022年に進出し、カントリーマアムをメインにベトナム国内での売上基盤の確立に注力しています。



◆不二家グループ及び従業員数 (2023年12月末時点)



グループ

7社

※対象範囲：国内連結子会社のみ



従業員数

2,409名

単体：1,329名

◆洋菓子・レストラン店舗数 (2023年12月末時点)

洋菓子店

939店舗



レストラン

39店舗



◆ロングセラー商品 (2023年12月末時点)

発売30年以上

17品

※主な商品の現在の画像



トップメッセージ



代表取締役会長

山田 憲典

「こころあたたまる世界」の実現のために

不二家は、1910年(明治43年)横浜の元町に小さな洋菓子屋として創業して以来、一世紀以上の長きにわたり最良の商品と最善のサービス(ベストクオリティ・ベストサービス)を通して、多くのお客様においしさや楽しさ、満足を提供し続けてきました。この間、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しましたが、創業者が抱いた「お菓子で世の中を幸せにしたい」という強い想いは、今も変わることなく私たちに受け継がれています。

現在の不二家グループは、洋菓子店やレストラン・チェーンを全国に展開する「洋菓子事業」と、スーパーマーケットやコンビニエンスストア向け商品の製造卸を行う「製菓事業」を両輪としながら、海外も含めた幅広い領域で事業を推進しています。その根底にあるのは「Smile makes the heartfelt world～笑顔がつけるこころあたたまる世界～」という独自の価値観です。

おいしいお菓子がもたらすお客様一人ひとりの笑顔や、家族・友人との楽しいひととき、人と人を結びつける絆は、私たちの目指す「こころあたたまる世界」の実現につながっています。自社の事業成長のための活動と、さまざまな社会問題の解決に向けた取り組みを両立させ、持続可能な未来の実現に貢献していくことは、企業経営における最重要テーマであると当社は考えています。

こうした認識のもと、当社は2023年6月に「サステナビリティ方針」を策定し、サステナビリティに対する自社の考え方を明確化するとともに、グループ全体でこれを共有し、組織的な取り組みを推進していくための指針としました。同方針では「環境」「人権」「従業員」「地域社会」をサステナビリティ活動における4つの柱と位置づけ、それぞれの領域において重点テーマを定めて、グループ横断的に積極的な活動を展開しています。

「モノからコトへ、コトからココロへ。」私たち不二家は、これからもさまざまなステークホルダーの皆さまとともに、お菓子が生み出す人々の笑顔が社会につなぎ、たくさんの笑顔の連鎖によってすべての人々がタガイ(互い・違い)を思いやり、大切に「こころあたたまる世界」の実現を目指していきます。皆様には引き続き温かいご理解とご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

河村 宣行

「持続的成長」に向けたチャレンジ

当社は「安全、安心な商品を提供する」という想いを常に根底に持ちながら、お菓子の可能性を追求することで持続的な成長基盤を作り、事業領域を拡大すべく、全従業員の共通認識として「不二家グランドデザイン(中期構想)」を掲げています。

事業領域の拡大に向けたチャレンジとして、洋菓子事業では、近隣に当社の洋菓子店がないお客様にも気軽にケーキをお買い求めいただける洋菓子予約サイト「FUJIYA Sweets.com」を開設しました。また、昨年からは展開を始めた冷凍スイーツ自動販売機「FUJIYA CAKE's STAND」は、2024年には350台まで広がります。国内市場だけでなく、セミフレッド技術を活用した冷凍洋菓子の海外輸出も計画しています。

製菓事業では、若い世代を中心に好評をいただいている「カントリーマアムチョコまみれ」を筆頭に「まみれワールド」シリーズの多面展開や、半生菓子やシリアルなど新たなカテゴリーへ参入していきます。

海外事業では、主力の中国事業に加え、2021年には今後市場の拡大が見込めるベトナムに現地法人を設立しました。現在、カントリーマアムを日本より輸出し現地仕様にして販売しておりますが、さらなるベトナム市場の拡大に向け、2025年の稼働を目指し現地工場の建設を進めていきます。

事業活動とともに、自然環境への配慮や社会課題の解決などにも真摯に向き合い、サステナビリティ方針に基づいて「環境」「人権」「従業員」「地域社会」の4つの分科会を設置し、全社的な取り組みを進めています。環境については、TCFDへ賛同し「気候変動の緩和と適応」「環境配慮商品の企画開発」などに取り組むことで、2030年度の目標としてCO₂排出46%削減(2013年比)、また、食品リサイクル率95%以上を目指しています。

人権については、バリューチェーン全体での人権尊重を推進し、2028年にはサステナブルカカオ豆(ガーナ産)の調達を100%にする計画を進行しています。

従業員については、各々の持つ強み・能力を最大限発揮できる環境を提供するなど、人的資本経営を推進し、地域社会とは「共存・共栄・調和」を図り、お菓子やペコちゃんを介した不二家らしい取り組みを通じ、社会との交流を深めていきます。

本報告書を通じて、当社の取り組みやその活動内容についてご理解いただくとともに、ご意見やご感想などをいただければ幸いです。

価値創造プロセス

不二家の価値観



Smile makes the heartfelt world

笑顔がつくる
こころあたたまる世界

不二家がお客様に提供している価値、それは「おいしい × たのしい × こころの豊かさ」

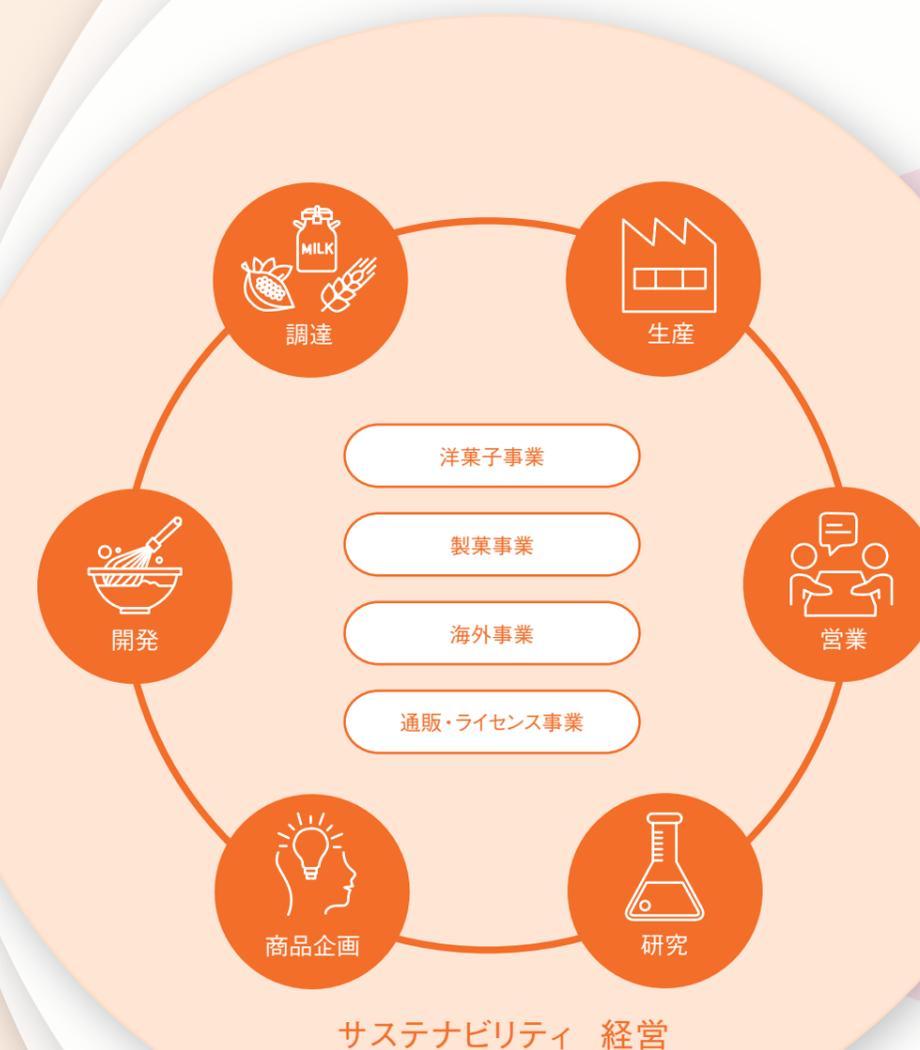
「ひとりで食べておいしい!」そんなひと時から
「みんなで囲んでたのしい!」幸せいっぱい時間まで
不二家はお客様の笑顔、こころあたたまる絆や記憶を提供してきました。

モノからコトへ コトからココロへ

不二家はこれからもひとりの笑顔を社会に繋ぎ、そこから生まれる笑顔の連鎖によって、
タガイ(互い・違い)を思いやり大切にする、こころあたたまる世界を実現します。

- ### 重要課題
- 信頼される商品・サービスの提供
 - こころ躍るスイーツの提供
 - 地球環境保全に対する配慮
 - 事業活動における人権の尊重
 - 従業員の健康向上・労働環境改善と公平な処遇
 - 地域社会との共存・共栄・調和
- ### 外部環境
- 四半世紀にわたる日本企業の事業収益性
 - 資本生産性の低迷
 - 日本人口構造の変化
 - 第四次産業革命の加速度的な進展
 - カントリーリスク
 - ESG課題

- ### 不二家の強み
- こころと技術の融合、誠心を込めた商品づくり
 - 歴史ある安全安心のブランド
 - 親しみやすいキャラクター
 - お客様に直接お届けできる全国約950の店舗網
 - スーパー、コンビニエンスストア、ECなど多様な販売チャネル
 - 不二家の価値観を実践する従業員
 - 安全安心な職場環境
 - 安定した財務基盤



不二家洋菓子店舗

不二家レストラン

スーパー・コンビニエンスストア

オンラインショップ

不二家ネットショップ Family Town

不二家の サステナビリティ経営

- P12 不二家が目指すサステナビリティ経営
- P14 地球環境保全に対する配慮
- P23 事業活動における人権の尊重
- P27 従業員の健康向上・労働環境改善と公平な処遇
- P35 地域社会との共存・共栄・調和

不二家が目指すサステナビリティ経営

不二家の価値観「Smile makes the heartfelt world」(P9)の実現には、サステナビリティの取り組みが必要不可欠だと考えています。従来、企業活動は売上・利益といった財務指標のみを目標に取り組みられてきました。しかしながら、現在、企業活動の過程で環境・人権・従業員等への配慮が企業の責任として求められています。財務・非財務の取り組みを統合・進展させることが、企業価値の向上、そして不二家の価値観の実現に資するものであるという考えのもと、サステナビリティの取り組みを重要な経営課題の1つであると認識し、下記サステナビリティ方針に則った活動を推進しています。

不二家 サステナビリティ方針と4つの柱



◆不二家 サステナビリティ方針を支える4つの柱

地球環境保全に対する配慮

- 地球上のCO₂削減を目指す政府の方針に基づき、積極的に取り組みます。
- 当社の製品・事業におけるCO₂排出量(スコープ1、2排出量)削減を進めます。
- 「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」に賛同するとともに、TCFDコンソーシアムに加盟し、**脱炭素経営の推進、気候変動課題への対応**を進めます。

事業活動における人権の尊重

- 不二家は**人権を尊重し、多様性と包容性**を重視します。
- 多様な価値観を尊重**し、従業員の多様性を受け入れることで、働きやすい環境作りを目指します。
- 農産物や資材購入においては、人権侵害や児童労働に関する情報収集を進め、問題があれば**人権侵害の防止や労働条件の改善**を要請します。

従業員の健康向上・労働環境改善と公平な処遇

- 社員エンゲージメントの向上**を目指し、さまざまな経験を通じた人としての成長を支援します。
- 労働安全専門家による職場巡回を実施するなど**労働環境改善**に努めます。
- 従業員を代表する労働組合と**良好な関係を構築**し、相互理解と**諸問題解決に向けて協議**します。

地域社会との共存・共栄・調和

- 地域社会における一市民としての自覚と責任を持ち、**積極的に地域活動に参加し、共存・共栄・調和**を図ります。
- 事業活動による環境影響を最小限に抑えるとともに、**地域環境保全活動に寄与**します。
- 子どもの健やかな成長は社会からの要請でもあり、**その実現に向けて貢献**します。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティに関する取り組みについては、全社におけるサステナビリティ推進を図る「サステナビリティ推進室」のもと、「不二家 サステナビリティ方針」の4つの柱に沿った分科会を設置し、個々のテーマに取り組んでいます。その活動内容について、サステナビリティ推進室が取りまとめの上、取締役会に付議・報告することで、活動状況を監督しています。

今後、さらにサステナビリティに関するリスクについて適切な対応を図るため、「ESG委員会」を新たに設置することが決定しており、サステナビリティに関する取り組みをより一層推進していきます。

●サステナビリティ推進体制図



地球環境保全に対する配慮



環境方針

不二家は「不二家 環境方針」に基づいて、従業員一人ひとりが当社の果たすべき責任と役割を認識し、恵み豊かな地球環境を守り、持続可能な社会の実現へ貢献する「地球にやさしい企業」を目指します。

不二家 環境方針

私たち不二家は、常により良い商品・サービスをお客様に提供し続けるために、法令遵守、公正・公平な取引に努め、お取引先様とともに人権・環境等に配慮した調達を推進し、持続可能な社会の実現に寄与します。

- (1) 環境管理体制の整備と充実を図り、環境関連の法令やルール等を遵守します。
- (2) 製品の企画・開発・生産・物流・販売・廃棄に至るまでの環境負荷を考慮し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境目的・目標を定めて環境保全活動の継続的な向上・改善を図ります。
- (3) 事業活動における水資源・原材料の省資源化に努め、省エネルギー、廃棄物削減、リサイクル推進及びCO₂等の温室効果ガス排出量削減に取り組みます。
- (4) 地域社会の一員として、緑化、環境美化及び環境保全への支援・活動に取り組みます。
- (5) 生物多様性の維持・保全と生態系の保護に努めます。
- (6) 全従業員に向けた環境教育や啓蒙活動を積極的に行い、環境保全に関する意識向上を図ります。

制定 2000年02月
改訂 2023年12月

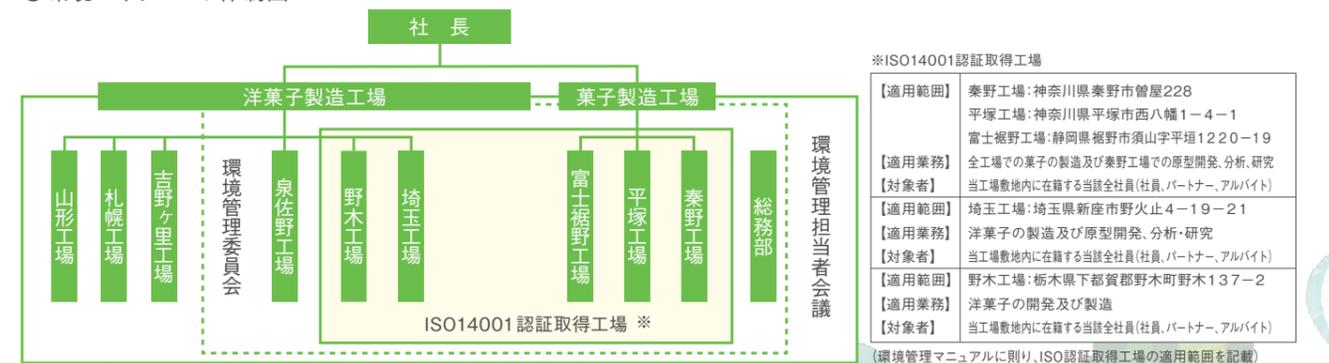
◆環境マネジメント体制

「不二家 環境方針」を軸にISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用し、環境マネジメント体制と、迅速な行動・コミュニケーションの強化を図るため、各工場を社長直轄の体制としています。

また、各工場には「環境管理委員会」を設置し、省エネルギーや廃棄物削減等の目標達成の取り組みと、パフォーマンス達成状況や環境関連法規の改正、遵守状況を毎月確認し、組織的に推進することで継続的な改善を図っています。

さらに、全工場間の環境情報や取り組みを共有する目的で、「環境管理担当者会議」を必要に応じて開催し、目標や課題への具体的解決策を検討し、改善への行動に結びつける環境マネジメントを推進しています。

●環境マネジメント体制図



◆審査機関による審査

ISO14001認証取得工場では、「ISO14001:2015年度版」の規格に基づき、1年に1回審査機関によるサーベイランス審査(定期審査)を実施しています。サーベイランス審査(定期審査)では、内部監査及びマネジメントレビューの実施状況、前回審査で特定した不適合についてとられた処置の確認等を行うことにより、環境マネジメントシステムが適切に機能しているのかをチェックし、ISO14001を維持していくうえでの重要な審査となっております。



▲外部審査の様子



気候変動への対応

◆考え方

「不二家 環境方針」に基づき、従業員一人ひとりが当社の果たすべき責任と役割を認識し、低炭素社会・循環型社会等持続可能な社会の実現に寄与する「地球にやさしい企業」を目指しています。その達成に向けては、気候変動への対応を重要な課題であると認識しており、2023年4月、金融安定理事会(FSB)により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)*1」提言へ賛同するとともに、「同コンソーシアム*2」へ加盟し、気候変動への対応と情報開示を推進しています。

※1 TCFD:G20から要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立。企業に対し、気候変動関連リスク及び機会について開示することを推奨する提言をまとめた。
 ※2 TCFDコンソーシアム:企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。



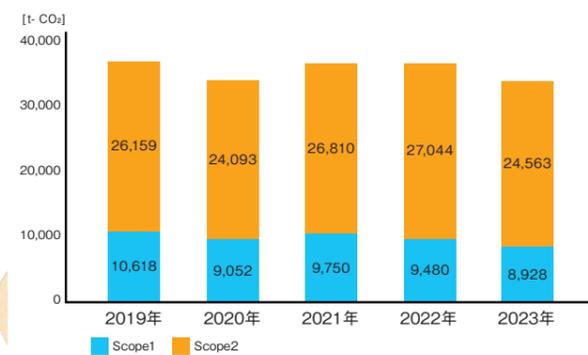
◆CO₂排出量削減実績と目標

2030年までにCO₂排出量を2013年度比で46%削減することを目標に、低炭素社会の実現に向けた取り組みを積極的に行っています。

2023年度は、2013年度対比で21.8%の削減となりましたが、目標達成のために今後より一層の努力をしていきます。

	2023年度実績	2030年度目標
CO ₂ 排出量削減	21.8%	46.0%

●CO₂排出量推移



※集計対象:全9工場(秦野、平塚、富士裾野、埼玉、野木、泉佐野、吉野ヶ里、札幌、山形)及び直営店舗、支店

◆CO₂排出量削減の取り組み

各工場ではCO₂排出量削減対策として、環境負荷の低い設備へと順次更新しています。そして、富士裾野工場、吉野ヶ里工場、秦野工場では工場の屋上に太陽光パネルを設置し、太陽光発電によって得た電力を工場で使用するなど、CO₂排出量の削減を進めています。

商品の配送時には、他菓子メーカーとの共同配送を全国で実施しています。輸送車両を減らすことにより、物流コストやCO₂排出量の削減を図っています。また、北海道・九州地区の配送においては、環境に優しく大量輸送が可能な船舶や、鉄道コンテナを有効的に利用し、CO₂排出量の削減を図っています。



▲太陽光パネル(富士裾野工場)

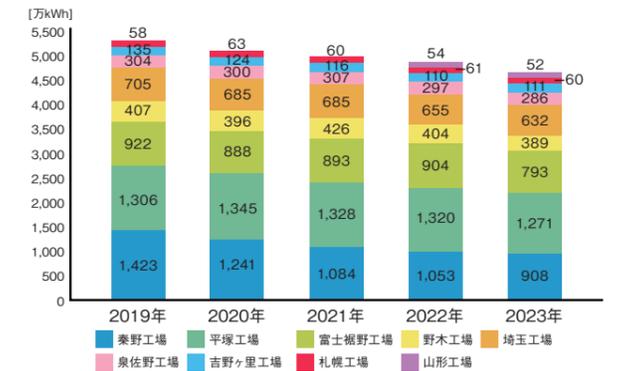
◆エネルギー使用実績

各事業所・工場において、省エネルギー設備の導入及び合理化や、空調設備の運転方式の改善など省エネルギー対策に努めています。

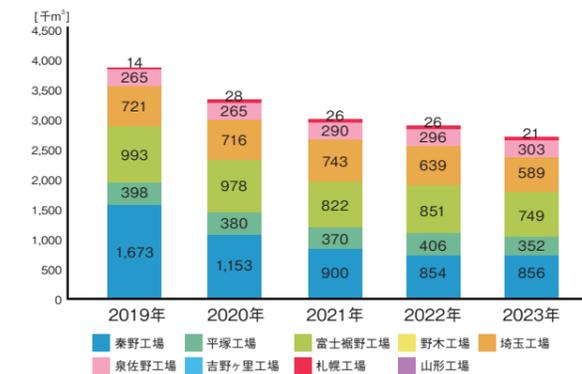
2023年度のエネルギー使用量は2022年度と比較し、電力は7.3%、都市ガスは6.6%、LPガスは7.6%の減少となっています。

今後も設備の定期更新や新技術の導入など、エネルギー使用量の削減や合理化に積極的に取り組んでいきます。

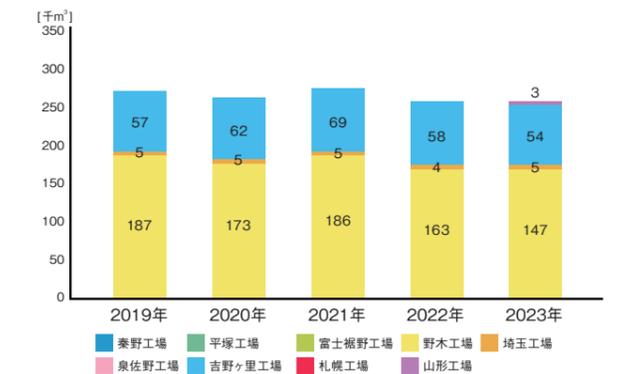
●電力使用量推移



●都市ガス使用量推移



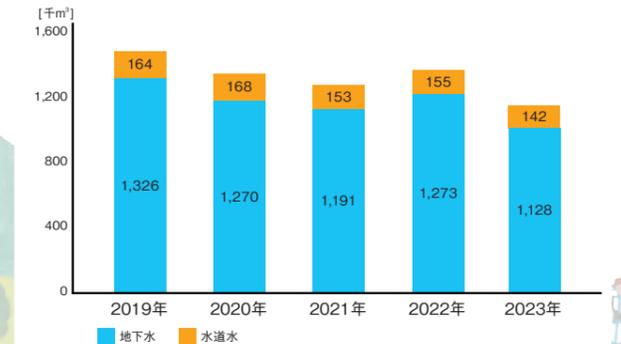
●LPガス使用量推移



◆水資源使用実績

私たちが日常生活や経済活動を営むうえで、水はかけがえのないものですが、現在、世界人口の増加、開発途上国の経済成長、気候変動などにより、世界規模での水資源問題が発生しています。当社の事業活動に水資源は必要不可欠であり、工場における水資源の管理、調査などを定期的に行い、水資源の保全に努めています。

●水資源使用量



※集計対象:全9工場(秦野、平塚、富士裾野、埼玉、野木、泉佐野、吉野ヶ里、札幌、山形)

TCFDに基づく情報開示

当社は、気候変動を事業の持続的成長における重要な課題と認識しています。2023年4月に「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」に賛同するとともに、同コンソーシアムに加盟し、気候変動への対応と情報開示を推進しています。

◆TCFD提言が推奨する4つの開示項目

項目	対応状況
ガバナンス	気候変動を含むサステナビリティに関する取り組みについては、全社におけるサステナビリティ推進を図る「サステナビリティ推進室」のもと、「不二家 サステナビリティ方針」の4つの柱に沿った分科会を設置し、個々のテーマに取り組んでおります。その活動内容について、サステナビリティ推進室が取りまとめのうえ、取締役会に付議・報告することで、取締役会が活動状況を監督しております。
戦略	2023年に実施したシナリオ分析により、洋菓子事業と菓子事業を対象に2℃・1.5℃シナリオ ^{*1} と4℃シナリオ ^{*2} における2030年時点のリスクと機会を特定・評価しました。生産工場や全国に店舗を有し、洋菓子や菓子の販売を主事業とする不二家では、炭素税による操業コストや、カカオ豆、小麦、牛乳、大豆油といった農畜産物の調達コストの増加が大きなリスクとして想定されます。本分析で特定・評価したリスクと機会に対応するため、経営戦略への反映を進めています。
リスク管理	当社では「経営リスク」「事故・災害リスク」等に対して、事前にリスクの特定・分類・分析・評価を行い、適切に対応するための「リスク管理委員会」を設置し、年4回開催しています。「リスク管理委員会」は代表取締役社長を委員長として、委員会において進捗のモニタリングを行い、必要に応じて取締役会に報告することで、リスク管理全般の統制管理を行っています。気候変動を含むサステナビリティに関するリスクについては、適切な対応を図るため、代表取締役社長を委員長とした「ESG委員会」を新たに設置することが決定しています。
指標及び目標	気候変動によるリスクを緩和するため、以下のとおり指標・目標を定めております。 ・温室効果ガス(CO ₂)排出量の削減：生産工場における省エネ・創エネ施策の推進 ・食品リサイクル率の向上：生産工場、店舗等で排出される規格外製品の再資源化 ・ガーナ産カカオ豆のサステナブル調達：「不二家 購買・調達方針」に則った、ガーナ産カカオ豆のサステナブル調達活動の推進

指標	2023年実績	2028年目標	2030年目標
温室効果ガス(CO ₂)排出量の削減 (2013年度比)	13.9%削減 ^{*3}		46%削減
食品リサイクル率の向上	79.3%		95%
サステナブルカカオ豆の調達	43%	100%	

^{*1} 2℃、1.5℃シナリオ・・・産業革命期頃と比較して、2100年頃までに気温上昇を2℃程度に抑える世界を想定したシナリオ。脱炭素社会への移行が進行する世界観。
^{*2} 4℃シナリオ・・・産業革命期頃と比較して、2100年頃までに地球平均気温が約4℃上昇する世界を想定したシナリオ。異常気象を伴う自然災害などの被害拡大が予想される世界観。
^{*3} 2022年4月から2023年3月の実績。

◆戦略 気候変動シナリオ分析

当社では、洋菓子事業と菓子事業を対象としてシナリオ分析を実施しています。2023年度に実施したシナリオ分析では、2030年における4℃シナリオ及び2℃・1.5℃シナリオの2つの将来世界観を整理し、リスクと機会の特定・評価を行っております。特定・評価したリスクと機会に対応すべく、経営戦略との整合性を図ってまいります。

◆リスクと事業インパクト

リスク項目については、2030年における財務インパクトを推定し、影響度を大中小で評価しました。その結果、リスク・機会一覧表に示したように4℃シナリオにおいては「原材料コストの変化」、2℃・1.5℃シナリオにおいては「炭素税の導入」「プラスチックへの規制」「顧客行動の変化」「原材料コストの変化」が特に大きな影響を及ぼす可能性があることを確認しました。

一方で、環境意識の高まりなどお客様の新たなニーズへの対応や、気温上昇によるお客様の嗜好変化や喫茶需要の増加に合わせた商品開発、店舗業態での出店等、事業機会の可能性を確認しています。

●リスク・機会一覧表

分類	リスク項目	時間軸	事業への影響	影響度	
				4℃	2℃・1.5℃
移行リスク	炭素税の導入 [*]	中期～長期	事業活動に伴うCO ₂ 排出量に対して課される炭素税による操業コストの増加	小	大
	プラスチックへの規制	短期～長期	石油由来原料への規制強化等、プラスチック梱包材への規制が導入された場合、紙を用いた包装へ変更するなどの対応コストの増加	小	大
	省エネ/再エネ政策の強化 [*]	中期～長期	省エネ政策強化による省エネ対応設備への切替コストや、店舗のZEB化・ZEH化への対応コストの増加	小	小
	エネルギーコストの変化 [*]	中期～長期	再生可能エネルギーへの需要増加による電力価格高騰が引き起こす、電力調達コストの増加 化石燃料や電力などエネルギー価格の変動による、石油由来包装及び輸送コストの変動(増加)	小	中
	顧客行動の変化	短期～長期	環境意識の高まりによる消費者離反や、小売企業による当該商品の採用減に伴う売り上げの減少	小	大
移行/物理リスク	原材料コストの変化 [*]	短期～長期	持続可能な農業への移行や干ばつ、平均気温の上昇に伴う、原材料(カカオ豆、小麦、牛乳、大豆油等)調達コストの増加	大	大
物理リスク	異常気象の激甚化 [*] (台風、豪雨、土砂、高潮等)	短期～長期	気象災害の激甚化による拠点の被災及びサプライチェーンの寸断による損害や営業停止による損失の発生	小	小
物理機会	平均気温の上昇	短期～長期	気温の上昇によるお客様の嗜好変化、喫茶需要の増加、収益の増加	小	小

^{*}印のリスク項目は、定量的な評価を実施しています。・時間軸の定義は、短期:0～3年 中期:4～10年(2030年ごろ) 長期:11年～としています。

具体的な取り組み

温室効果ガス(CO ₂)排出量の削減	当社では、2030年までにCO ₂ 排出量を2013年度比で46%削減することを目標に、低炭素社会の実現に向けた取り組みを積極的に行っています。例えば、生産工場の屋上に太陽光パネルを設置し、太陽光発電によって得た電力を工場で使用するなど、CO ₂ 排出量の削減を進めています。また、商品の配送時に排出されるCO ₂ についても削減活動を推進しており、共同配送等により配送の効率化を行うことで、使用燃料及びCO ₂ 排出量の抑制に努めています。
プラスチック使用量の削減	製品の容器や包装については、商品をおいしく安全にお客様にお届けするための「品質保持」の役割を維持するとともに、省資源や廃棄時の環境負荷低減などの「環境配慮」への対応を進めています。例えば、プラスチック包材から紙包材への切替や、外装・個包装・トレーなどの薄肉化及びサイズの縮小に取り組んでいます。洋菓子店舗やレストランにおいても、バイオマスプラスチックを使用した持ち帰り袋への切替などを行っています。
お客様の嗜好変化への対応	お客様の環境に対する意識の高まりにより、環境配慮型商品への需要が増加するなど、お客様の嗜好も変化しています。エシカル消費の広まりに対し、上記プラスチック使用量の削減のほか、FSC認証紙の使用や、サステナブルな原料を使用した商品及び気温上昇によるお客様の嗜好変化に合わせた商品の開発などに取り組んでいます。

^{*}リスクへの対応策をはじめとする具体的な取り組みについては、当社ホームページや本レポートで開示しています。

食品ロス・廃棄物削減への取り組み

不二家では、商品の設計からお客様に届くまでに発生する食品ロスや廃棄物の削減に取り組んでいます。各工場では製造過程における食品ロス削減のため、品質の安定・安全供給を目指し、生産機械の改良、更新を行っています。包装ラインにおいても、改良や自動化を進め、包装資材の簡素化・軽量化を進めています。

◆食品リサイクル率実績と目標

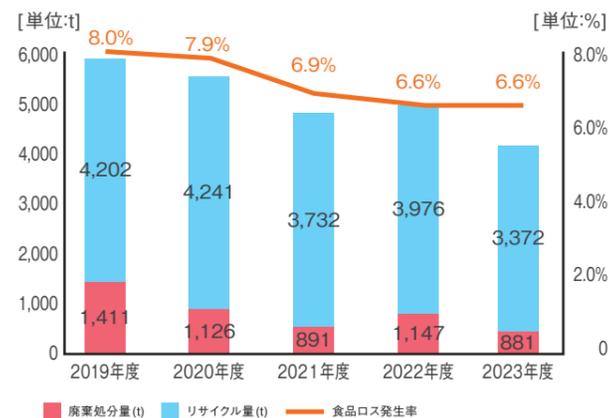
2030年度の食品リサイクル率95%達成を目標に、各工場等の製造工程で発生した廃棄物は、飼料・肥料等の原材料化、燃料等への再生利用を積極的に実施しています。

2023年度では発生した食品ロス4,253t（前年比83.0%）の内、3,372tをリサイクルしました。

	2023年度実績	2030年度目標
食品リサイクル率	79.3%	95.0%

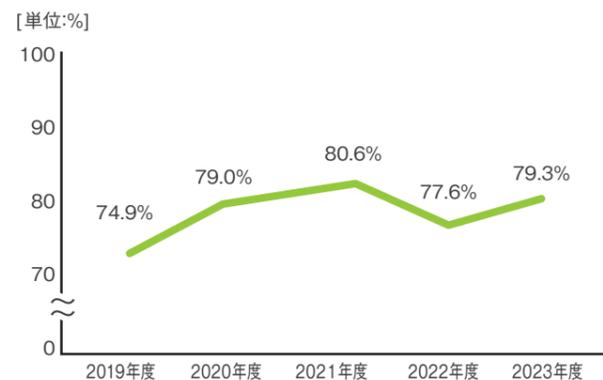
(2030年度末までに)

●食品ロスにおけるリサイクル率及び廃棄処分量



※集計対象：全9工場（秦野、平塚、富士裾野、埼玉、野木、泉佐野、吉野ヶ里、札幌、山形）

●食品リサイクル率推移

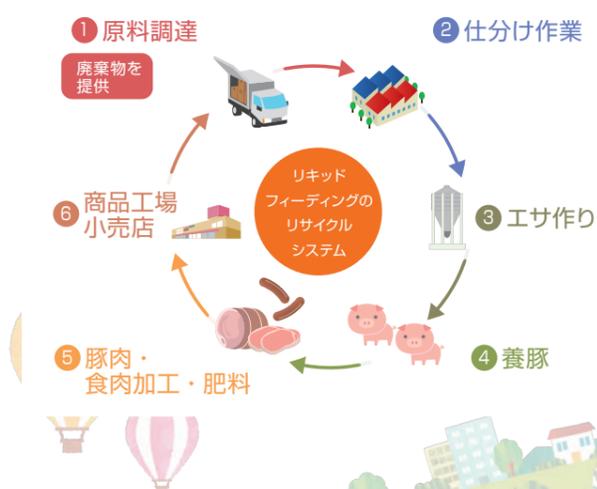


◆食品ロス削減の取り組み（食品リサイクルの取り組み）

不二家では各工場で発生した廃棄物をプライドピックグループが運用するリサイクルシステム「リキッドフィーディング」に提供し飼料化することで、可能な限り食品ロス削減に努めています。2023年度は、3,071tを飼料化しました。

また、洋菓子店舗では、多くの皆様楽しんでいただけるよう、日々多くの商品を取り揃えておりますが、その反面で商品が余ってしまう課題がありました。そこで販売後のロスを削減するため、食品ロス削減のためのフードシェアリングサービス「TABETE（タベテ）」を導入しています。

※2023年12月現在103店舗で実施



容器包装での環境負荷低減

製品の容器や包装については、製品をおいしく安全にお客様にお届けする「品質の保持」の役割を維持しながらも、省資源や廃棄時の環境負荷を低減する「環境配慮」の両側面を大切に取り組みを進めています。2023年においては包装材料の削減（サイズダウン）や環境に配慮した包装材料の使用促進に取り組みました。

◆FSC 認証紙の使用

近年、世界で森林資源が失われ、環境及び社会経済に深刻な影響をもたらすことが危惧されており、不二家では紙製容器でのFSC®*1認証紙*2への切り替えを推進し、使用を拡大しています。

菓子製品の小箱や洋菓子店舗で使用している紙器などに関しては、ほとんどFSC認証紙を使用した包材への切り替えが進んでいます。



*1 FSC® (Forest Stewardship Council®、森林管理協議会) 責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする、独立した非営利団体であり、国際的な森林認証制度を運営している組織。

*2 森林の管理や伐採が、環境や生態系、地域社会に配慮して適切に行われているかなどの、評価・認証を受けた原材料を使用した紙のこと。

◆プラスチック削減

各商品に使用する外装や個包装、トレーなどについては、プラスチック使用量削減に向けサイズや厚み、材質などを随時見直しています。2022年からは主力商品であるカントリーマアムブランド3品の外装サイズを縮小し、合計で年間約100tのプラスチック削減に取り組んでいます。

「100gミルキー袋」の外装は、2020年から紙パッケージを採用しています。キャンディ個包装もこれまで通りの包み紙を使用し、脱プラスチックを実現しています。



●薄肉化実績

	ホームパイ	ピーナッツチョコレート
薄肉化実績	約17%削減	約20%削減

◆ダンボール

商品の外箱や品質に影響がない範囲で薄肉化やサイズの縮小を進めています。サイズの縮小により多くの商品を積載し、配送効率の向上を図っており、保管・輸送に関わるエネルギー使用量の抑制にも繋がっています。

2023年度は「アンパンマンコロコロビスケットボーロ」「アンパンマンひとくちビスケット」「アンパンマン幼児用ビスケット」の3品のダンボールを薄肉化し、配送効率の向上を図りました。1ケースあたり約2%のCO₂削減に繋がっています。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

◆バイオマス素材の活用

一般のインキに用いられている原料は石油であることが多いですが、石油は枯渇資源の1つです。バイオマスインキとは樹木や米ぬか等の再生可能な有機性資源を一部使用したインキのことで、バイオマスインキを使用することで石油の使用量を抑制でき、またカーボンニュートラルの実現にも貢献することができます。

不二家では、菓子製品の外装や内装をはじめ、ほぼすべての包材に植物由来のバイオマスインキを使用しています。2021年からは、洋菓子店舗やレストランのポリ袋や紙袋を環境に配慮した素材に変更しています。



不二家ファミリー文化研究所

不二家ファミリー文化研究所は、私たち不二家の「もっともっとファミリーの幸せに貢献していくためには何ができるだろう?」という想いから2003年4月に誕生しました。テーマは「伝えていきたい自然伝えていきたい家族の絆」。自然から生み出される食材を扱う私たちにとって、言うまでもなく大切な「自然」を守っていくこと。そして、「ファミリーの不二家」という理念のもと、お菓子を通じて家族の幸せな時間を作るお手伝いをしてきたこと。それらのことを、考え行動し伝えていくための研究所です。

◆自然環境保護活動

不二家ファミリー文化研究所は、自然環境保護活動の一環として、長野県黒姫にある荒廃した森を購入し、その森を整備保護していただける団体にトラスト活動として寄贈しました。また寄贈先のご理解を得て、その森を「ペコちゃんの森」と命名し、継続的に整備活動への支援・参加をしています。

この森は、熊笹や灌木の覆い茂った藪そのものでしたが、数年の手入れを経て徐々に明るさを取り戻し、2012年にブナやミズナラを植樹しました。以降、CCC自然・文化創造会議/工場様のご協力のもと、本社や支店・工場など、さまざまな部署の社員が有志で参加し、定期的に不要な下草を伐採して地面に日光を導き、ブナやミズナラをはじめとする木や草が生い茂る明るい森作りに取り組んでいます。

この森を通して、自然の力と人間の営みについて学びながら、森林の再生と保護、環境教育活動を継続して行っています。また、徐々に変化している「ペコちゃんの森」の様子は、不二家ファミリー文化研究所のウェブサイト内にてご報告しています。

※寄贈先は、環境保護団体「CCC自然・文化創造会議/工場(議長 倉本 聡氏)」です。



▲「ペコちゃんの森」整備活動の様子

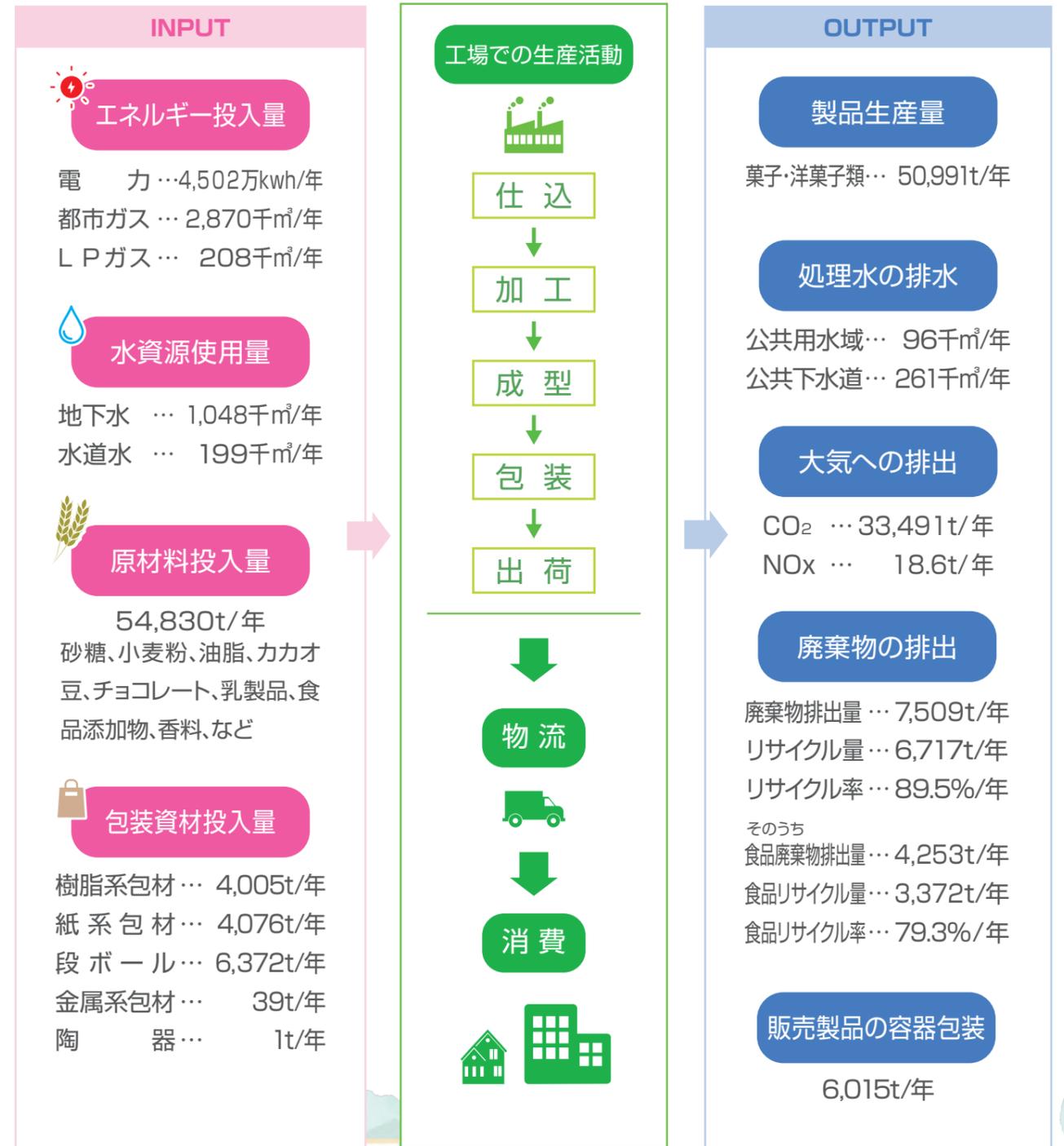


<不二家ファミリー文化研究所>
<https://www.fujiya-peko.co.jp/mori/>

環境データ(マテリアルバランス)

不二家では、事業活動におけるエネルギー及び資源の投入量(インプット)と、その活動にともなって発生した製品及び環境負荷物質(アウトプット)を正しく把握し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

●2023年度マテリアルバランス



※集計対象: 桑野工場、平塚工場、富士裾野工場、埼玉工場、野木工場
 ※期間: 2023年1月~2023年12月

事業活動における人権の尊重



人権尊重に向けた取り組み

当社は、バリューチェーンを含む不二家とかがかわるすべてのお客様・従業員のこころと人生を豊かにし、持続可能な未来の実現に貢献するため、「不二家 サステナビリティ方針」を支える4つの柱の1つに「事業活動における人権の尊重」を掲げ、グループ会社とともに、人権尊重の取り組みをより一層推進しています。

具体的には、「不二家グループ 人権方針」に則り、「社内に対する取り組み」と「サプライチェーンに対する取り組み」を行っています。社内に対しては、コンプライアンス体制を整備するとともに、人権に関する教育・啓発活動を推進しており、サプライチェーンに対しては、「不二家 購買・調達方針」のもと、持続可能な原材料の調達について、お取引先様と協働しながら推進しています。

不二家グループ 人権方針

1. 人権尊重へのコミットメント

私たち不二家は、「愛と誠心と感謝をこめて お客様に愛される不二家になります」という社是のもと、創業以来、お客様の人生に寄り添い、お菓子が作り出す人と人との「絆」や生活の「彩り」を創造してまいりました。変化が激しい社会において、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」ことを念頭に、「愛」「誠心」「感謝」をこめて企業活動を行います。

これからもバリューチェーンを含む、不二家とかがかわるすべてのお客様・従業員のこころと人生を豊かにし、持続可能な未来の実現に貢献するため、私たちは「サステナビリティ方針」を支える4つの柱の1つに「人権の尊重」を掲げ、人権尊重の取り組みをより一層推進してまいります。

私たちは、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、人権尊重の取り組みを推進します。その他、国連「国際人権章典」（「世界人権宣言」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」並びに「市民的及び政治的権利に関する国際規約」）をはじめとする国際規範を支持し、不二家の人権に関する重要課題を特定し、これらの課題について真摯に取り組みます。

また、私たちは事業を行う各国の法令やルールを遵守します。それらが国際的な人権規範と一致しない場合は、当該国の法令を遵守することを前提に、国際的な人権規範を最大限尊重できるよう努めます。

2. 方針の適用範囲

不二家グループ（株式会社不二家及び連結子会社）のすべての役員・従業員に適用します。また、不二家グループのバリューチェーンにおけるすべてのステークホルダーに対しても、本方針をご理解の上、ともに人権の尊重に努めていただくことを期待するとともに、私たちとしてもそのように働きかけ、責任あるバリューチェーンの構築に努めます。

3. 不二家が認識する人権に関する重要課題

私たちは、上記の国際規範等に基づき、人権に関する重要課題を以下のように設定し、適切に対応してまいります。なお、重要課題については適宜見直し、時代のニーズや事業内容に沿ったものとします。

(1) 差別の排除

人種、国籍、年齢、性別、性的指向、性自認、障がい、宗教、出自、財産、その他の地位などの属性による一切の差別を行いません。

(2) ハラスメントの排除

パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、その他のハラスメント等の個人の尊厳を傷つける言動を行いません。

(3) 児童労働・強制労働の禁止
児童労働、強制労働、奴隷労働及び人身取引を一切許さず、自らも行いません。

(4) 労働基本権の尊重
結社の自由並びに労働者の団結権及び団体交渉権をはじめとする労働基本権を尊重します。

(5) 適切な賃金支払い及び労働時間の管理
従業員に対する賃金支払いや労働時間の管理を適切に行います。

(6) 安全な職場環境の確保と健康増進の支援
従業員にとって安全かつ衛生的で快適な職場環境を確保し、すべての従業員の健康増進に向けた取り組みを行います。

(7) 外国人労働者の権利
外国人労働者の適正な労働条件や安全衛生を確保するとともに、それぞれが有する能力を十分に発揮できるような職場環境の確保とコミュニケーションに努めます。

(8) 社会・環境への責任
事業活動が環境や地域住民の人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、地域住民の人権の尊重に対する責任を果たします。

(9) 個人情報の適正な取扱い
個人情報の保護に関する法令を遵守し、個人情報の適正な取扱いに努めます。

4. 人権デュー・ディリジェンス

私たちは、本方針を実践し、人権を尊重する責任を果たすため、人権デュー・ディリジェンスの仕組み（①人権への負の影響の特定及び評価、②調査結果に応じた適切な措置の実施、③対応が適切に実施されているかの追跡調査、④対処方法に関する情報発信）を構築し、この一連のプロセスを継続的に繰り返すことにより、人権デュー・ディリジェンスに取り組んでいきます。

5. 教育・周知・啓発

本方針が事業活動を通して効果的に実行されるよう、役員・従業員への適切な教育・研修を行うとともに、不二家のバリューチェーンにおけるすべてのステークホルダーに対しても周知・啓発を行います。

6. 苦情処理体制及び救済

私たちは、内部通報制度の運用や寄せられた苦情への対処等により、人権侵害の予防、早期発見及び再発防止に取り組めます。また、適切な手続きを通じて必要な救済措置を講じます。

7. 対話・協議・情報開示

私たちは、本方針の取り組みにおいて、ステークホルダーとの対話と協議を真摯に行います。また、取り組みの進捗状況及び結果を、継続的に開示します。

8. 責任者

本人権方針の実現及びそれに向けた取り組みに関する監督責任は、株式会社不二家の代表取締役社長が担います。

制定 2023年12月

社内に対する取り組み

当社は、人権を尊重し、多様性と包容性を重視しています。個々の違いを受け入れ、互いに認め合い、各々が活躍できる職場環境をつくるためには、従業員の意識醸成が必要不可欠だと考えています。

◆人権教育

新入社員に対し、人権の基礎知識、ハラスメント等の職場における人権問題について教育を行っています。

また、従業員のコンプライアンスマインドの醸成・啓蒙は、企業価値向上のための最重要テーマと位置づけ、全従業員を対象としたコンプライアンス教育を実施しています。コンプライアンス意識の維持・向上や自社事例共有のほか、2007年の一連の問題に留まらず、長時間労働やハラスメント・アンガーマネジメントなど、社会情勢を反映させた内容にブラッシュアップしています。

	2022年度実績	2023年度実績
コンプライアンス教育受講率(本庸社員)	99.1%	100.0%

※コンプライアンス体制についてはP46に掲載しています。

◆人権啓発

「不二家 人権ひろば」と題した社内人権イベントを開催しています。展示物・映像視聴・体験等を通じ、身近な例から人権知識を深めるとともに、人権について自分事として考える機会を提供しています。



▲「不二家人権ひろば」の様子

サプライチェーンに対する取り組み

不二家 購買・調達方針

私たち不二家は、常により良い商品・サービスをお客様に提供し続けるために、法令遵守、公正・公平な取引に努め、お取引先様とともに人権・環境等に配慮した調達を推進し、持続可能な社会の実現に寄与します。

- 法令・社会規範遵守**
関係各国の法令や社会規範を遵守し、健全な調達活動を行います。
- 品質・安全性の確保**
お客様からご満足いただける商品の安定供給を達成するため、安全・安心への取り組みを行い、品質の確保に努めた調達活動を行います。
- 人権への配慮**
「不二家グループ 人権方針」を踏まえ、児童労働・強制労働等の人権侵害を排除した調達活動を行います。
- 地球環境への配慮**
「不二家 環境方針」を踏まえ、地球環境に配慮した調達活動を行います。
- 公正・公平な取引**
品質・コスト・納期・技術力等の総合評価に基づき取引先を選定し、公正で自由な競争取引を推進します。
- パートナーシップ強化**
お取引先様に対して、いかなる時も誠実で公平な対応を心がけ、お取引先様と相互に発展することで、持続可能な社会の発展に寄与します。

制定 2023年12月

◆持続可能な調達目的

持続可能な社会の実現に向け、サプライチェーン上で生じる社会課題について、お取引先様と協働し、解決に向けて取り組むことが必要不可欠だと考えています。

特に、調達においては、「不二家 購買・調達方針」に基づき、原材料の生産段階における環境・人権問題への取り組みや、調達段階における安定性の確保などを推進しています。

カカオ豆

チョコレートの原料であるカカオ豆の原産地では、貧困・児童労働等の社会課題や森林破壊といったさまざまな社会課題を抱えています。そのような課題解決に向け、2018年よりカカオ産業のサステナビリティ向上を目指す世界カカオ財団(WCF)に加盟、2021年よりサステナブルカカオ豆(人権・環境等の課題に配慮して生産されたカカオ豆)の調達を推進しています。具体的には、2028年までにガーナ産カカオ豆のサステナブル調達比率を100%とすることを目標に取り組んでいます。

また、サステナブルカカオ豆の購入により、お取引先様を通じて、カカオ栽培農家の支援活動に寄与しています。

	2022年度実績	2023年度実績	2028年度目標
ガーナ産カカオ豆のサステナブル調達	24.2%	43.3%	100.0%



●支援活動の一例

- CLMRS^{*1}、VSLA^{*2}などを活用した児童労働解決に向けた取り組み支援
- 現地農家の生活水準向上支援
- カカオの木を直射日光から守るシェードツリー(日陰樹)の植林支援

^{*1} CLMRS (Child Labor Monitoring and Remediation System: 児童労働監視改善システム) カカオ産地で児童労働撤廃のための活動を推進するNPO団体のICIが開発したシステムで、各農家に対するモニタリングとモニタリングに基づいた対策・立案・実行のサイクルで児童労働を防止する手法。

^{*2} VSLA (Village Savings and Loan Association) 農家コミュニティ内での自主的な資金管理を支援し、児童労働の根本的要因の一つである貧困を改善する手法。

パーム油

お菓子やケーキに使用される油の1つであるパーム油の原産地では、急速なアブラヤシ農園の拡大による森林伐採や生物多様性の損失、不適切な農園経営による人権問題等、さまざまな社会課題を抱えています。当社では、持続可能なパーム油の調達を目指し、RSPO^{*3}に加盟しています。

^{*3} RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil / 持続可能なパーム油のための円卓会議)

世界自然保護基金(WWF)を含む関係団体を中心となり、2004年に設立された。世界的信頼される認証基準の策定とステークホルダーの参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的としている。

◆お取引先様との協働

サプライチェーンにおけるさまざまな課題の解決や、「不二家 購買・調達方針」に則った調達活動の推進には、お取引先様との協働が不可欠だと考えています。新たな原料・サプライヤーを採用する際には、審査(右図)を行い、採用の可否を決定しています。

新規原料・サプライヤーを検討する際には、使用に適した原材料か、お取引先様はどのような会社かを見極めるために、まずは情報を収集し、書類審査を行います。

次に、「現場・現物・現実」の三現主義に基づき、実際に現地や工場に足を運び、現物や生産環境等に問題がないかを確認します。問題がある際は、必要に応じて改善・指導を行い、採用の可否を決定しています。

今後も、持続可能な社会の実現に向け、調達分野においてどのように貢献できるかを検討し、お取引先様と協働しながら課題解決に努めます。

●取引先選定フロー



従業員の健康向上・労働環境改善と公平な処遇



人材に対する考え方

不二家 人事方針

不二家の価値観「Smile makes the heartfelt world」の実現に向け、不二家と従業員との強固な関係を築くため、従業員の成長を支援するとともに、各々の持つ強み・能力を最大限発揮できる環境と場を提供します。

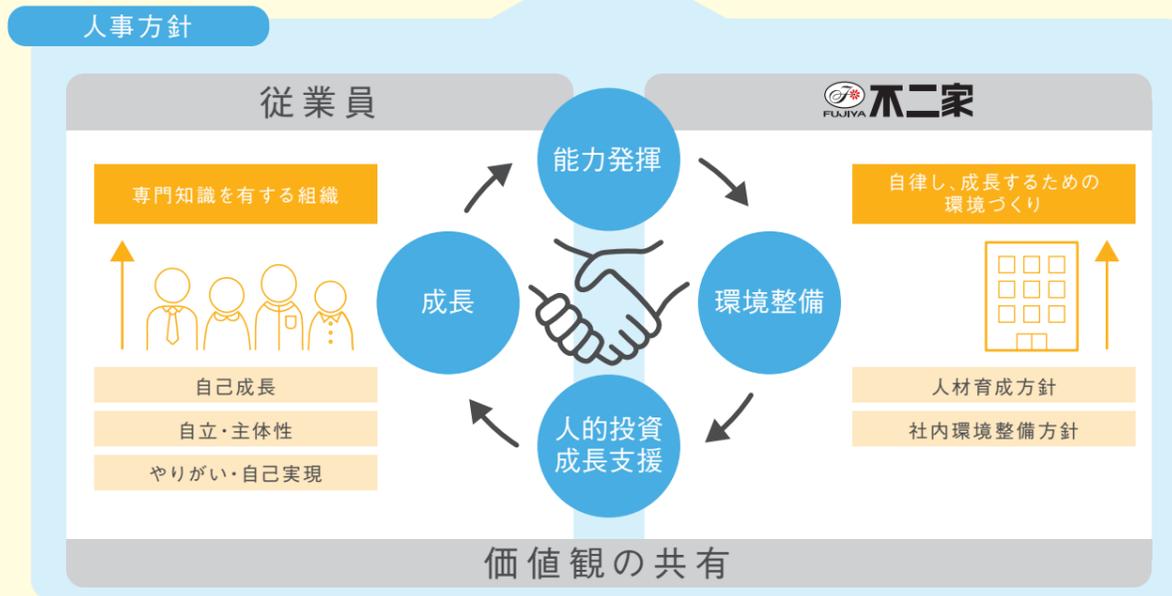
制定 2023年12月

不二家 人事方針概略図

Smile makes the heartfelt world

～笑顔がつくる ころあたたまる世界～

ころあたたまる絆や記憶の提供



当社では、「Smile makes the heartfelt world ～笑顔がつくる ころあたたまる世界～」について、全従業員が不二家の価値観として共有しています(P9参照)。

当社は、人材について経営を担う重要な財産の1つであると捉えており、「Smile makes the heartfelt world ～笑顔がつくる ころあたたまる世界～」の実現には、当社価値観への共感をベースに、お客様・地域社会に対して、継続的に価値を提供し続ける「自律した人材」が不可欠であると考えています。

上記考えのもと、「人材育成」及び「社内環境整備と健康経営推進」を重要課題とし、さまざまな施策を推進しています。

人材育成に対する考え方

不二家 人材育成方針

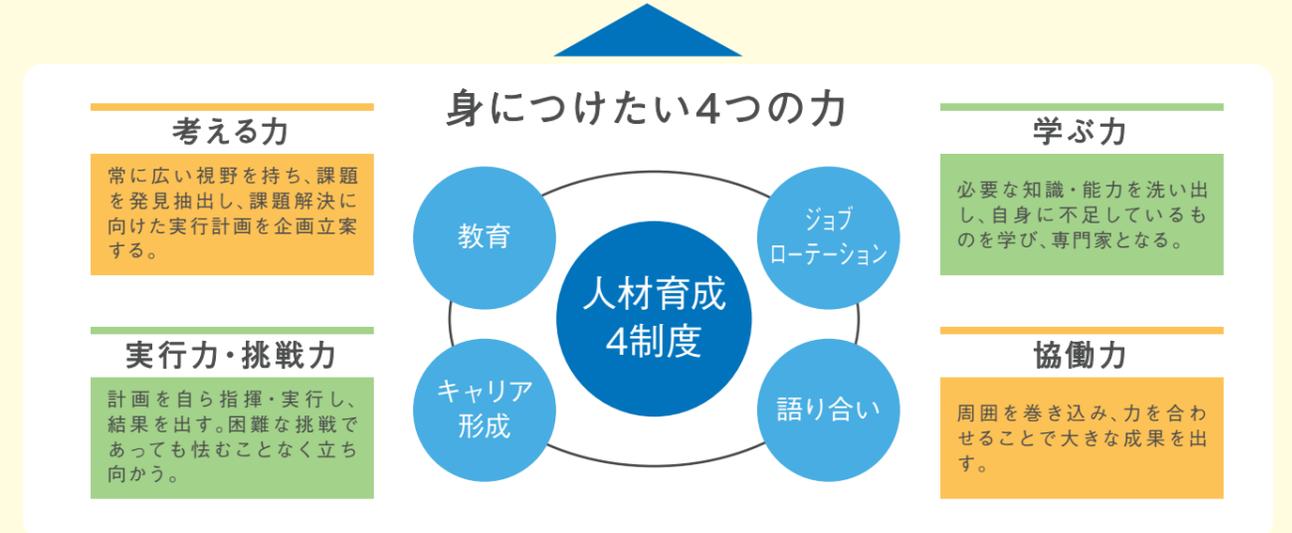
- (1) 「個の成長」と「個々が強い結びつきを持つ組織」の両立により、多様な人材が活躍する組織を実現します。
- (2) 多様な職務経験・人との関わりを通じた幅広い能力開発と人間的成長を支援します。
- (3) 自律人材の育成に向け、自己成長支援を推進するとともに、主体的にキャリアが形成できる環境を整備します。

制定 2023年12月

不二家 人材育成方針概略図

不二家が目指す人物像

- ・好奇心旺盛で想像力豊かな人材
- ・各々の役割を果たす能力を身に付け、成果に結びつけられる人材
- ・環境変化を的確に捉え、自ら変革を実行できる人材



当社では、不二家の未来を創る、多様な「自律した人材」が活躍する組織実現を目指しています。人事制度を通じて、社員一人ひとりが「高い能力を持つ集団(専門家)」でありながら、「個々が強い結びつきをもつ組織(高エンゲージメント組織)」となるのが重要だと考え、経営戦略と連動した施策を推進しています。

具体的には、「教育」・「ジョブローテーション」・「自律したキャリア形成のための仕組み」・「語り合い」を人材育成4制度とし、「教育」による職務遂行能力の向上、「ジョブローテーション」による多様な人材の育成、「自律したキャリア形成のための仕組み」による個人意思尊重と社内人材フローの流動化、「語り合い」による本人と上司の相互理解・自己成長支援を進めています。

●人材育成に関する目標と実績

	2023年度実績	2025年度目標	2030年度目標
従業員意識調査における「成長実感とキャリア展望」のスコア*	3.1点	3.5点	4.0点
研修費用 (2022年度実績を100とした時の率)	166%	180%	200%

*従業員意識調査の質問項目「あなたは、当社における自分自身のキャリア目標(将来のありたい姿)を描いているか」に対する回答状況です。5段階評価の回答の平均スコアを算出しており、4.0点以上が「良好」、3.5点以上4.0点未満が「及第」となります。

◆教育

人材育成に大きく関わる不二家の人事制度の最重要ポイントは、「やりがいのある仕事に携わり、夢を実現させていくための仕組みづくり」です。働く中で「幸せ」を感じるからこそ、商品・サービスを通じてお客様に「幸せ」を提供することへの近道だと考えています。

また、入社後3年間及び階層別に研修を実施することで、早期に活躍できる社員を育成するとともに、求められる役割や責任を理解することで、より活性化した組織の醸成を進めています。



▲不二家ビジネスカレッジの様子

新入社員研修	社是・経営理念、会社の規則・制度、ビジネスマナー、コンプライアンスなど不二家の社員として必要とされる基本的な知識・態度・心構えを身につけることを目的に実施しています。
フォローアップ研修	入社年次ごとに集合型研修のスタイルで実施し、入社からの3年間で必要とされる能力を段階的かつ体系的に学ぶことを目的に実施しています。
OJTリーダー研修	指導・助言方法、職場全体での育成などをテーマに教育を実施しています。業務を通じて新入社員を指導・育成することにより、新入社員・OJTリーダー相互の成長を目的としています。
ランクアップ研修	中堅社員やリーダーなど階層別に求められる役割に応じて必要な知識・スキルを身につけることを目的に実施しています。
新任管理職研修	新任管理職に必要とされるマネジメントの基本的な考え方や管理者が果たすべき役割を身につけることを目的に実施しています。
不二家 ビジネスカレッジ	総合的なビジネス知識の習得をはじめ、不二家の将来を担う次世代のビジネスリーダーを育成することを目的に実施しています。

◆キャリア形成

主体的にキャリアを描き、自走する自律型人材を育成します。職務遂行能力の拡大に重点を置きつつ、各年代でのキャリア研修の実施や、自ら新たな仕事・職種にアプローチできる社内公募制度も整備し、自身のキャリアについて考える機会を増やします。

社内公募制度	個々の能力発揮の機会・適材適所の実現・自律的なキャリア形成を目的とした制度です。
通信教育	自律した人材を育成するため、年2回の受講期間を設けています。受講促進を目的とした費用支援を行っており、年間延べ1,800人以上が受講しています。

◆ジョブローテーション

複数の職務経験を積むことによって、幅広い視野・能力の獲得と人間性の成長を目的としてジョブローテーションを実施しています。また、ジョブローテーションを支える制度としてOJTリーダー制度を採用し、職場で若手社員が孤立してしまうことを防ぐ仕組みづくりをしています。

OJTリーダー制度	先輩社員がOJTリーダーとなり、新入社員を支援します。OJTリーダーに対しては、新入社員との信頼関係の構築方法、コミュニケーションスキルの習得を目的とした研修を実施しています。
-----------	--

◆語り合い

本人と上長1対1による対話「語り合い」を実施しています。上長からの一方的な面接ではなく、お互いに話し合うことで相互理解を図る面談システムです。語り合いは育成(育成面接)と目標設定(目標面接)の2つの観点から実施し、半期毎に評価をすることで支援と結果の測定を行います。仕事に対する意識向上とやりがいの醸成、相互信頼関係の構築、各々の成長支援を推進します。

①育成面接	前期の目標に対する成果の確認を目的としています。職務考課にも結び付いており、本人の自己評価と上長の評価をしっかりと擦り合わせます。本人の能力向上に向けた助言も行います。
②目標面接	半期毎の目標設定をします。また、目標達成に向けたプロセス、上司からの支援についても話し合います。

職場環境に対する考え方

不二家 社内環境整備方針

- (1) 「不二家グループ 労働安全衛生方針」を踏まえ、安全・安心が確保された職場環境を整備します。
- (2) 従業員が個々の能力を最大限発揮するために、「心理的安全性」を高め、「多様性」を尊重する風土を醸成します。
- (3) 従業員を代表する労働組合と健全かつ良好な関係を構築し、相互理解と諸問題解決に向けて協議します。

制定 2023年12月

不二家 社内環境整備方針概略図

不二家が提供する能力発揮の場

物理的・心理的な安全安心が確保され、従業員が個々の能力を最大限発揮することができる環境

多様な人材の活躍

ワークライフコントロール

安全・安心な職場

こころと身体の健康

5つの視点

DE&I

柔軟な働き方
両立支援

労働安全

健康経営

労使関係

当社では、社内環境整備方針に基づき、「安全・安心な職場づくり」及び「各々の持つ強み・能力を最大限発揮できる社内環境の整備」を推進しています。具体的には、上記「不二家 社内環境整備方針概略図」のとおり、「多様な人材の活躍」「ワークライフコントロール」「安全・安心な職場」「こころと身体の健康」の実現を目指しています。その達成状況を確認するための目標を設定し、5つの視点に沿った取り組みを進めています。

安全・安心な職場環境の整備と健康経営の推進については、特に労働時間の短縮、労働災害の未然防止を重要課題と位置づけ下記の目標を掲げ、達成に向けて取り組みを推進しております。

●社内環境整備に関する目標

	2023年度実績	2025年度目標	2030年度目標
労働災害率(度数率※)	0.28	00.0	00.0
年間総実労働時間	2,054時間	1,950時間	1,850時間

※100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(不労災害による傷病者数は含まず)をもって労働災害発生頻度を表している。

DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)

DE&Iを経営上の重要な戦略と位置づけ、各々が持つ能力を十分に発揮し、活躍できる環境を作ることで、すべての従業員にとって働きがいのある企業に向けて取り組みを進めています。

※DE&I…「Diversity(多様性)」、「Equity(公平性)」、「Inclusion(包括性)」
年齢や性別、国籍、出身地など、さまざまな属性や異なる価値観を認め合うことで、多様な人材が活躍できる環境を作る考え方。

◆女性活躍

性別に関係なくあらゆる職場、職位で活躍している状態を目指しています。女性が組織内で活躍することで、個人の成長だけでなく、組織や社会全体の創造性とイノベーションを生み出すことを目的としています。また、仕事と生活の調和を実現できる環境作りのため、男性の育児休業取得を推進しており、2024年度は男性育児休業取得率100%とすることを目標に掲げています。

●女性活躍に関する実績

	2022年度実績	2023年度実績
管理職における女性比率	9.4%	12.0%
新卒入社者における女性比率	50.0%	53.3%
男性育児休業及び育児目的休暇取得率(平均取得期間)	83.3%(10.3日)	92.9%(38.0日)

◆シニア活躍

定年退職後も雇用を継続する定年再雇用制度を導入しています。長年培ってきたスキルや経験を活かして職務を遂行するとともに、後進の育成、技術継承を目的としています。

	2022年度実績	2023年度実績
再雇用率	90.9%	92.9%

◆多様な人材の採用

障がい者、中途採用者、外国人等、さまざまな窓口から多様な人材を採用し、各々のもつ強みを最大限発揮できる職場環境を目指しています。

障がい者雇用

障がい者の雇用促進に取り組んでおり、法定雇用率を上回る雇用率を維持しています。障がいのある従業員が適性に応じた仕事を行い、自身の持つ能力を最大限発揮できる職場環境を目指しています。

	2022年度実績	2023年度実績
障がい者雇用率	2.48%	2.40%(2月時点)

中途採用

2023年の中途採用者数は9人でした。さまざまな経験を持つ採用者に、私たちになかった価値観を持ち込んでもらい、それぞれの強みを活かした活躍を期待しています。

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績
中途採用比率	26.1%	15.1%	9.2%

※中途採用比率=中途採用者数 ÷ 採用者数(新規学卒・正社員登用・中途採用) × 100(%)

外国人採用

特定技能制度の活用を中心に外国人材がやりがいを持って活躍できる環境作りに取り組んでいます。具体的には、英語による手順の表示や住宅の貸与を実施しています。

柔軟な働き方・両立支援

社員が環境変化への対応や、多様な価値観を受容できる人材の育成を進めており、その実現のために全ての社員がさまざまな制約にとらわれず、個性や強みを最大限発揮しながら、自己実現をするための環境整備を進めています。

◆柔軟な働き方の実現

仕事の生産性・効率性の向上、従業員のプライオリティにあわせたワークスタイルやライフスタイルの実現に向け、柔軟な働き方を可能とする下記の制度を導入しています。

有給休暇の取得促進

余暇や自己研鑽に充てる時間の創出のために有給休暇の取得を促進しています。また、取得しやすいよう、取得方法も1日単位だけでなく、半日単位、時間単位など柔軟性を高めています。

フリーアドレス制

本社ビルにおいて固定席を設けず、従業員が席を選んで働くことができるフリーアドレス制にしています。また、1部フロアでは集中して作業を行う席や、WEBミーティング専用席、コミュニケーションスペース、イベントスペースなどさまざまな用途で利用できる場所を設置しています。

テレワーク制度

時間や場所を有効に活用し、生産性向上や、BCP対策を目的としてテレワーク制度を導入しています。

◆生活と仕事の両立支援

生活と仕事を両立し、全社員が能力を十分に発揮できる環境作りを積極的に行っています。

時差勤務

育児事由による時差勤務制度を導入しています。子どもの送迎等の時間に追われることなく安心して働ける環境作りに力を入れています。

短時間勤務

育児・介護を事由とした短時間勤務制度を導入しています。各人のライフスタイルに合わせ、始業や休憩時間を個別に設定し、働くことができます。

育児サポート

育児サポートとして、育児目的休暇やカフェテリアプランによる保育費用補助の制度を用意しています。

●柔軟な働き方・両立支援実績

	2022年度実績	2023年度実績
短時間勤務者	55人	46人
時間外労働時間(平均)	15.25時間/月	15.08時間/月
年次有給休暇習得日数(平均)	11.7日/年	11.8日/年

労働安全・健康経営

不二家グループ 労働安全衛生方針

不二家グループは、従業員の安全衛生と健康の確保を第一とし、常に活力ある企業であるとともに、安全で安心して健康に働ける職場作りを行います。

- (1) 労働安全衛生関係法令、社内規程及び社内ルールを遵守します。
- (2) 継続的なリスクアセスメントの実施により、労働災害ゼロを目指します。
- (3) 多様な人材が安全・安心に働ける職場作りに努めるとともに、健康管理対策を講じ、健康維持増進を図ります。
- (4) 労働災害・交通災害・心身の健康に関する積極的な社内教育及び情報発信により、従業員の意識向上に繋がります。
- (5) 全従業員参加型の安全衛生活動の実施により、働きたくなる美しい職場作りを進めます。

制定 2023年12月

「お客様に安全な商品をお届けするには、従業員の安全と健康に配慮し、全従業員が安心して働くことのできる職場環境作りが不可欠である」との経営トップの強い意志のもと、労働災害ゼロを目指し、労働災害防止に向けた施策を実施しています。

全国的な労働安全衛生方針の策定、安全対策の検討や各事業所の安全巡回を行う「中央労働安全衛生委員会」を本社に組織し、その下部組織として全国の各事業所に「安全衛生委員会」を設置しています。安全衛生に対する取り組みを継続的に進め、労働災害ゼロを目指し、活動を強化し続けています。

◆安全への取り組み

日常的な取り組みとして、ヒヤリハット(気付き事項の提案)・スピークアップ(会話による情報収集)による職場内の不安全箇所の共有化とその改善を進めています。また、新規設備導入時には、そこで働く従業員も参加し、リスクアセスメントを実施してリスク低減、不安全箇所の改善を進め安全な職場環境を整えています。

各工場の定期的な安全巡回は安全衛生委員に限らず、ほかの職場の従業員も参加してさまざまな視点からのチェックを行っています。また、労働安全衛生の専門家の顧問と中央労働安全衛生委員が全国の工場(9工場)、洋菓子店舗(2店)、レストラン(2店)及び関係会社(4社)の巡回を実施しています。社外の専門家の視点で巡回を行うことにより、幅広いチェックを行い、安全水準の底上げを進めています。



▲工場での安全巡回の様子

	2022年度実績	2023年度実績
改善件数	187件	254件

※労働災害率(度数率)については、P31に掲載しています。

防災への取り組み

毎年定期的に全事業所で避難訓練及び安否確認の訓練に取り組んでいます。特に各工場では年間2回、防火・防災の観点から徹底的な点検を行うほか、震災などを想定した帰宅困難者対策も行っています。

防火・防災の自主点検では、避難経路の確保、燃焼設備周辺の可燃物のチェックのほか、従業員教育の実施状況の確認、防災備品の点検などをしており、2023年度は燃焼設備周辺エリアを視覚的に確認できることを目的に、燃焼設備エリアを設置し、エリア周辺にトラテープ及び入口に表示を行いました。

また、帰宅困難者対策では、定期的な防災備品の見直しをしています。大規模災害の直後では、下水道復旧まで時間を要し、トイレが使用できないことが想定されるため、帰宅困難となる従業員の健康等に配慮して、より衛生的で安全な簡易組み立て式トイレを2022年より本社および各工場に導入し災害に備えています。



▲燃焼設備エリア入口の表示



▲ほぼ紙トイレ

労使関係

管理職及び経営に関わる部署の人員を除く全正社員が「不二家労働組合」に加入しています。労使間では、健全な企業経営と企業の持続的な発展を目指し、「労使協議会」「経営協議会」を開催しています。経営側と組合側がさまざまな観点から諸問題について忌憚のない意見交換を行うことで、課題解決や諸施策導入などを進めています。

地域社会との共存・共栄・調和



食品安全品質方針

お客様と不二家の信頼関係は、商品のおいしさと同時に、安全な品質の上に成り立っていると考えます。商品のおいしさを追求するとともに、お客様に安心してお召し上がりいただける商品を提供する努力を、企業活動の最優先課題として取り組んでいます。

不二家 食品安全品質方針

- (1) 当社はお客様に満足いただける、安全で品質のよい商品とサービスを提供します。
- (2) 関連法規を守り、安全・安心な食品安全マネジメントシステムを確立し、運用します。
- (3) 食品安全マネジメントシステムの有効性を担保するため、継続的な改善を行います。
- (4) 食品安全教育を徹底し、食品安全意識の向上及び食品事故の発生防止に努めます。
- (5) 風通しのよい企業風土を作り、社内及び外部関係者との積極的なコミュニケーションを図ります。

食品安全品質方針の達成のため、各部門の目標を設定し、レビューするとともに、全体に周知徹底します。

2019年3月26日

株式会社 不二家 代表取締役社長 河村 宣行

品質保証システム

品質保証体制

不二家は、社長直轄の組織である食品安全衛生管理本部を中心に、常にお客様の視点に立ち、さらなる満足をご提供するため、食品安全品質方針に基づき全ての部門において安全・安心な商品作りに取り組んでいます。

食品安全衛生管理本部は、従業員に対し食品衛生に関する正しい情報や手法を提供することによって、お客様に満足していただける安全な商品をお届けすることを使命としています。

「食品安全管理部」「食品品質管理部」「お客様サービス室」の3部門体制のもと、組織強化を図っており、また、各工場に食品安全衛生管理本部の組織として分室を設置し、業務の独立性を高め、チェック機能を強化しています。

●食品安全衛生管理本部組織図



◆食品安全マネジメントシステム及びHACCPの取り組み

食品安全管理体制のさらなる強化を目的として、製造工場を中心に第三者機関による食品安全の認証であるISO22000、FSSC22000及びJFS-B規格を取得しています。洋菓子店舗とレストランでは「HACCPの考え方に基づいた衛生管理計画」を遵守し、日々徹底した衛生管理を行っています。

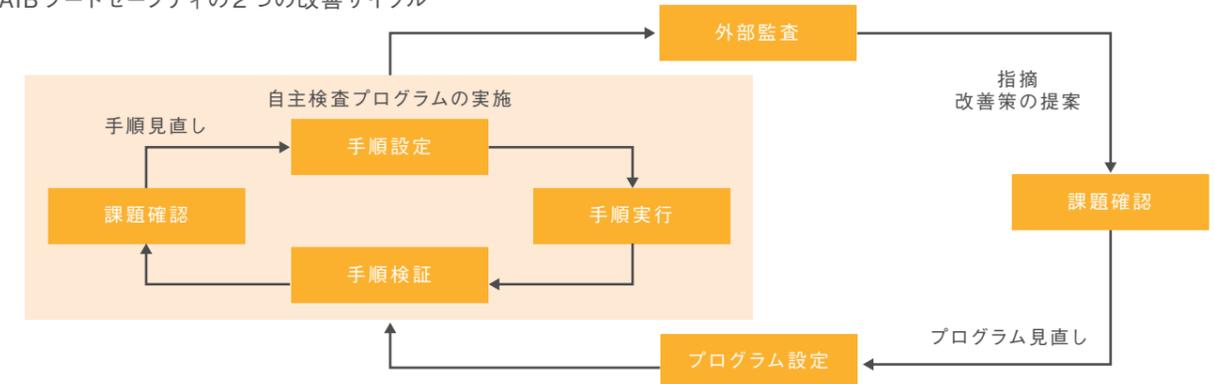
今後も、食品安全マネジメントシステム及びHACCPの活動を軸に、お客様に安全・安心な商品をお届けできるよう努めていきます。

◆AIB フードセーフティの取り組み

2007年2月よりAIBフードセーフティの取り組みを開始し、現在では洋菓子製造6工場、菓子製造3工場のすべての工場及びレストラン店舗にまで取り組みを拡大しています。AIBフードセーフティとは原材料の入荷から製品出荷までの安全性を確保するために100項目以上の要求事項が記載された「AIB国際検査統合基準」に則って、食品安全衛生管理を有効に機能させるために行う活動です。

AIBフードセーフティには、毎月実施される自主検査による改善サイクルと、外部監査員からの指摘に対する改善サイクルの2つのサイクルがあることが特徴です。この2つのサイクルを回すことで継続的改善を実施し、より高レベルな食品安全衛生管理の実現に向けて取り組みを継続しています。

●AIBフードセーフティの2つの改善サイクル



◆サプライチェーンの品質保証

商品・サービスを安心してお客様にご利用いただくために、食品安全及び品質上のリスクを最小限に抑えるべく、サプライチェーン全体で品質保証の継続的改善に取り組んでいます。

●不二家サプライチェーンプロセス図



設計開発(プロセス) 事例-商品のパッケージ表示-

食品表示法や景品表示法等の法令遵守を前提として、お客様に見やすくわかりやすく、誤認を与えない表示の作成を心がけています。具体的には、多くの人の「目」でチェックすることにより、間違いや誤認を防ぐ体制を設けています。

商品のパッケージ表示の作成においては、消費者庁や各業界団体に問い合わせをすることもあり、社外の「目」も入れてチェックします。できあがったパッケージデザインは、他部署にも回覧し複数部署の「目」でチェックします。新商品はパッケージデザインや品質等について、製造部門のチェック後に本社部門の「目」でもチェックします。1つの担当部署で完結させず、表示作成～商品の完成までを全社で共有する取り組みを行っています。

調達(プロセス)事例-トレーサビリティの確保-

購入した原材料は、ロットごとに適切に管理し、いつ・どこで・どの製品に使用したかわかるよう厳格にトレーサビリティの確保に努めています。サプライヤーとは、「調査チェック表」に基づき、手順・異物混入対策・工程管理など定期的に評価や品質監査を実施しており、サプライヤーとの連携を強化し、継続的な品質向上を推進しています。

また、新規サプライヤーを選定する際は、書類審査・現物確認・工場監査等を行うことで品質確保に取り組んでいます。

製造(プロセス)事例-継続的改善活動-

自社製造工場に加えてグループ会社製造工場及び製造委託工場についても現地監査を定期的に行い、食品安全及び品質上のリスク要因を抽出し、改善活動に繋げています。監査実施者を本社部門に限定せず、工場部門にも広げることで幅広い視点で製造工場を確認してリスクの抽出を行っています。

お客様の声

◆お客様のお問い合わせ窓口

お客様からのお問い合わせやご意見等の窓口として、「お客様サービス室」を設置運営し、土日や祝日も含む朝9時から午後5時までお電話でお問い合わせ等をお受けしています。ウェブサイトのお問い合わせフォームからのお問い合わせについては、メールで返信をさし上げる場合もあります。

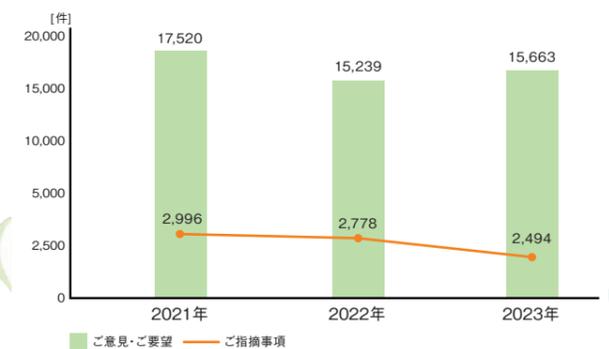
◆お客様からいただいた声

2023年1月から12月までの1年間に、お客様から15,663件のお問い合わせやご意見をいただきました(販売店様等からのご連絡案件も含む)。その内訳は13,169件(84.1%)がお問い合わせ・ご意見であり、2,494件(15.9%)がご指摘事項(クレーム)でした。

お問い合わせ・ご意見のうち60.1%が商品内容や商品の販売店、洋菓子店舗やレストランの営業についてのお問い合わせで、それ以外は不二家や商品へのご意見(7.1%)、キャンペーンについて(5.9%)、商品の特性(5.8%)、アレルギー情報など商品の安全性(4.6%)、その他(16.5%)でした。

商品の情報や特性(栄養成分、原材料など)については不二家ウェブサイトの商品ページに掲載することで、お客様が必要とする情報にアクセスしやすいよう努めています(洋菓子やレストランメニュー等一部商品を除く)。

●過去3年間にお客様からいただいた声

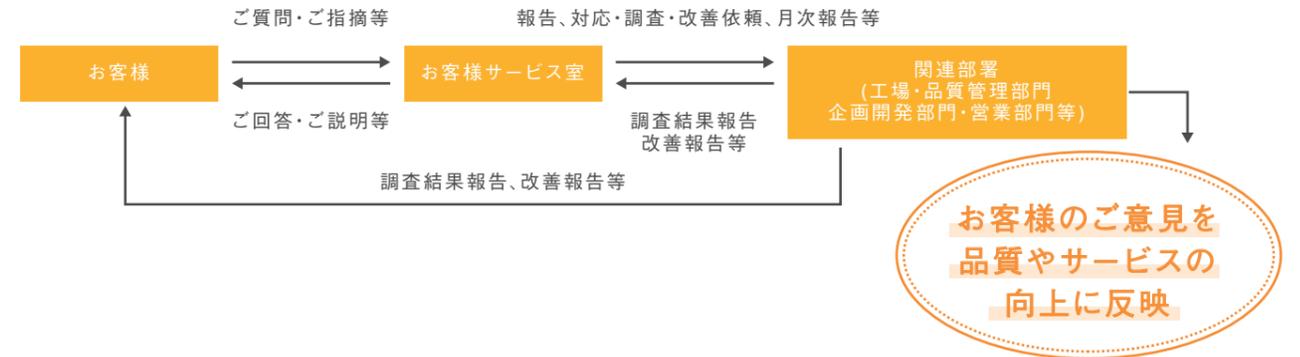


●2023年のお問い合わせ・ご意見の内訳

項目	件数 (%)
商品・営業サービスについての一般質問	7,913件 (60.1%)
不二家や商品へのご意見	935件 (7.1%)
キャンペーンについて	776件 (5.9%)
商品の特性	767件 (5.8%)
商品の安全性	600件 (4.6%)
その他	2,178件 (16.5%)

◆お客様の声を活かす仕組み

お客様サービス室宛にいただいたお客様のご意見等は、翌日までに社内の関係部署に全件速報として報告しています。また、品質やサービス等に関するご指摘事項(クレーム)等については工場や営業部門等関連部署に即時報告するとともに、調査を行い、品質やサービスの向上に役立てています。ご指摘事項については、月次や半期、通年等でデータを社内共有することで、中長期での品質やサービスの向上に役立てています。



◆お客様の声を商品やサービスに活かして

お客様からいただいたご意見について、関連部署に共有し、対応可能な内容については商品やサービスの向上に反映させています。

過去の反映事例

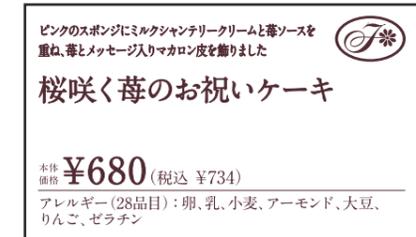
お客様からのご意見

りんごのアレルギーがあるのですが、ケーキを買う時にアレルギー表示を分かりやすくしてほしいです。



対応

不二家洋菓子店、不二家レストランでは、特定原材料7品目(卵、乳、小麦、落花生、そば、えび、かに)を店舗で使用しているケーキのプライスカードに表示していました。2023年9月以降は特定原材料に加え、りんごを含む特定原材料に準ずるもの21品目を加えた合計28品目について、ケーキのプライスカードにわかりやすく記載しています。



プライスカード例



◆お客様への情報発信

不二家ウェブサイトでは商品情報、店舗情報など、お客様が必要とされる情報を積極的に発信しています。お客様に安全な商品をお届けするための「不二家の取り組み」や、お客様から多く寄せられる質問を回答とともに掲載する「お客様窓口」など、コンテンツを充実させ、積極的な情報発信を行っています。

今後も最新の情報をお客様にお届けできるよう努めていきます。

●お客様窓口ページ



不二家食品安全の日教育

2007年1月に期限切れ原料使用に端を発した一連の問題が起きたことから、毎年1月11日を「不二家食品安全の日」と定め教育を実施しています。この日は、過去の歴史と向き合い、「二度と起こしてはいけない」という思いを従業員一人ひとりが再認識し、決意を新たにします。この17年で社員の平均年齢は大きく若返り、一連の問題を経験していない社員が多くなりました。これからもさらに増えていく中で、「この問題を風化させないために、自分は今何をすべきか考える」ことを目的とした「教育」を行なっています。「不二家食品安全の日」の教育は、生産工場を中心にオンラインで実施し、リアルタイムで参加できなかった従業員に対しても動画配信にて実施しています。

◆教育内容

問題点と改善策	行政から指摘された問題点と改善策、ルールを守ることの重要性
2007年当時の体験談	2011年に作られた冊子「後輩たちに語り継ぐ体験談集」から当時のリアルな体験談を執筆した本人にインタビューして紹介
現在の取り組み事例	現在の食品安全に対する取り組みとしてアレルギー管理体制を紹介

この教育を通し、今自分の立場ですべきことを考え、回答する形式で実施しました。当時の事実を客観的に把握し、実際対応に当たった従業員の話を聞くことによって、経験していない従業員もより現実的に捉えることが出来ると考えています。

一連の問題は「工場で起こったこと」が起点となっていますが、「どこでも起こり得るリスクを持っている」と認識し、工場・営業・店舗・本部の垣根を越えた相互理解のもと、従業員一同「食の安全」への取り組みをさらに強化、継承していきます。



▲河村社長の講話

◆受講者の声

(菓子商品開発部 管理職)

管理職として部下にルールを守らせることと、なぜそのルールが出来たか、ルールを守らないとどうなるかということをよく話をして伝えていきたいと思っています。

VOICE

(洋菓子広域営業部 一般職)

社会の信頼を得るためにも法律を遵守し、ルールを学び勉強し続けなければならないと感じた。今でも2007年のことを覚えているお客様もたくさんいらっしゃると思うので、日々の製品作りや活動において誠意をもって働いていきたい。

VOICE

(菓子工場 一般職)

不二家の商品を自信を持っておすすめできるよう、一緒に仕事をしている仲間とルールを守り製品を作り続けていきたいと思っています。

VOICE

(フードサービス部 管理職)

当時、お客様からのお叱りを毎日のように受け、レストラン営業も困難な状況でした。決してこの事案を風化させないためにも、部下を含め、語り継ぎ、これからも日々の業務に邁進していきたいと思っています。

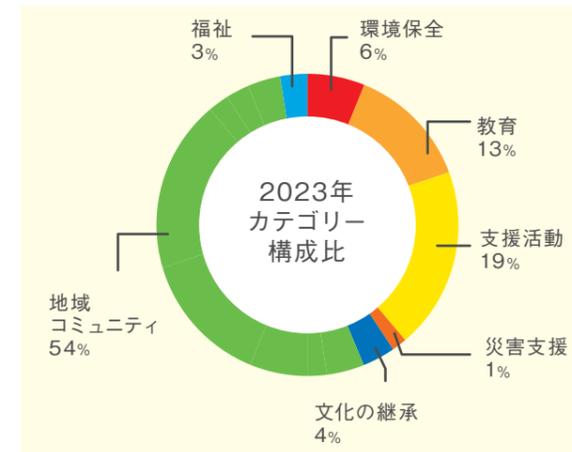
VOICE

社会貢献活動

◆考え方と活動実績

不二家を象徴する「ペコちゃん」や洋菓子店舗、レストラン、お菓子など、お客様に身近な企業としての優位性を最大限に活かしながら、地域社会との共栄・共存・調和を進めることが、持続的な企業の発展には重要であると考えています。

「不二家の価値観」や「サステナビリティ方針」に則った活動を推進し、不二家ならではのCSR活動に繋がっていくことで、社会から信用される企業を目指しています。地域社会との交流や啓発活動への協力、子ども達への支援活動に注力し、2023年は全社として141件のCSR活動に取り組みました。



◆活動事例

ペコちゃんが行く!不二家キャラバン隊

ペコちゃんがキャラバンカーに乗って幼稚園を訪問し、ダンスやクイズを行い子どもたちと触れ合うイベント「ペコちゃん行く!不二家キャラバン隊」が、約3年ぶりに再開されました。

2023年は東京都と埼玉県にある5施設、延べ568人の子ども達のもとを訪問し交流を図りました。“ペコちゃん”が、子ども達の思い出を彩る一つになれるようなイベントとして、今後も活動していきます。



ペコちゃんキッズアカデミー

2023年10月、15組17名の子どもたちとその保護者の方にご参加いただき、約4年ぶりに対面での「ペコちゃんキッズアカデミー」を開催しました。第11回となる今回は、不二家やミルクの製造工程を学ぶ「不二家の工場をのぞいてみよう」と、パッケージを活用した「お菓子かばんづくり」のプログラムを行いました。“食”を学び、家族や友人とたくさんの笑顔が生まれるイベントとして今後も活動していきます。



協力:東京都文京区「ワークスペースさきちゃんち」

元町ハロウィンフェスタ2023

2023年10月、不二家創業の地でもある横浜・元町にて「元町ハロウィンフェスタ2023」が開催されました。このイベントは「ありがとうの気持ちを伝える大切さ」を子ども達に体験してもらうことを目的の1つとして開催され、お菓子と子ども達を「ありがとう」の言葉で繋ぐ活動趣旨に賛同し、2007年から参加しています。当日は、仮装したペコちゃん、ポコちゃんが登場し、多くのお子様ご家族と交流を図りました。



文春マンガ読みとくシリーズ

株式会社文藝春秋の企画・制作のもと、「文春まんが読みとくシリーズ」の第9弾として、不二家を題材とした「ショートケーキ ここが知りたい!」を刊行しました。不二家のショートケーキに関する歴史や商品の魅力が1冊の学習まんがとしてまとめられたこの書籍は、全国約1万9,000の小学校図書室や特別支援学校1,300、小児病棟1,300、さらに主要公共図書館3,200ヶ所に寄贈されました。不二家のウェブサイトからも閲覧することができます。

▼「ショートケーキ ここが知りたい!」
https://www.fujiya-peko.co.jp/cake/bunshun-manga/#target/page_no=1



ムラサキパーク立川立飛

株式会社ムラサキスポーツが取り組む、若年アスリートの活躍が著しいアクションスポーツに励む次世代の子どもたちを教育・支援する活動に共感し、2023年7月にオープンした関東最大級のスケートパーク「ムラサキパーク立川立飛」にて開催するスケボー体験会に協力しています。

年間を通して「まみれさん presents ムラサキスポーツ スケートボード体験会」を開催し、年間約100回、延べ3,000人の参加を見込んでおり、スケートボードを始めるきっかけの扉、世界へはばたく飛躍の扉、新たな仲間と出会う憩いの扉、といった沢山の扉と子ども達を繋げる支援をしています。



横浜こどもホスピス

認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクトが運営する、生命に関わる病気や状況で治療や療養生活を送るお子さまとご家族の「家族の時間」を支え、地域とのつながりを育むコミュニティ型の施設「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち〜」の活動意義に賛同し、2021年から継続的に支援しています。

2023年4月には「こどもホスピス・ウィーク2023」が開催され、神奈川県内にある不二家レストラン8店舗のペコちゃん人形の胸にバッジを着用し、啓発活動に参加しました。また、12月のクリスマス会では、ケーキやギフト商品を提供し、イベントに協力しています。



◆他団体との取り組み

ゴールドリボンキャンペーン

早稲田大学ビジネススクール(WBS)と特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン(CNJ)が取り組む、小児がん啓発活動に賛同し協力をしています。「世界小児がん啓発月間」である9月に、東京都にある洋菓子店舗、不二家レストランの22店舗にて、小児がん啓発リボンである「ゴールドリボン」ピンバッジをペコちゃん人形の胸に付け、啓発活動を実施しました。



こども宅食事業

子どもの貧困を解決するために東京都文京区とNPO法人などの6つの団体が協働スタートした「こども宅食」は、経済的に困窮している子育て世帯に食品を無償で届けることをきっかけに見守り、必要な支援につなげ、地域や社会からの孤立を防ぐことを目的としたプロジェクトです。お菓子を通じ「家族の絆づくりの応援」をしたいとの考えから、2017年より年6回の定期配送時にお菓子を提供しています。

また、株式会社日本アクセスと、こども宅食事業を行う認定NPO法人フローレンスが取り組む「企業と地域団体をつないで食品を子育て家庭に届ける」事業「こどもフードアライアンス」にも参画しました。



児童虐待防止啓発活動

2020年から神奈川県児童相談所と連携し、体罰未然防止普及啓発活動に協力しています。さまざまな普及活動により、大人だけでなく子どもにも体罰未然防止の認識を広げ、子どもが安心して生活できる環境を作ることを目的としています。2023年は子ども虐待防止のシンボルマークである「オレンジリボン」をたすきに見立てリレーをすることで、子どもの虐待防止を啓発する「オレンジリボンたすきリレー2023」の会場でペコちゃん、ポコちゃんが登場するクリアファイルを配布しました。また、神奈川県所管地域の公立小学校で配布する啓発カードにも、ペコちゃんとポコちゃんが登場しています。



チャイルド・スポンサーシップの参加

2020年より、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)※の活動の一環である「チャイルド・スポンサーシップ」に参加しています。この活動は、途上国の子どもの健やかな成長のために、子どもを取り巻く環境を改善する長期的な支援を行い、子どもたちと地域の人々が「未来を切り拓く力」をつけられるように支えるものです。不二家はこの活動を通じて子ども達を支援しています。

※子どもたちとその家族、そして彼らが暮らす地域社会とともに、貧困や紛争、自然災害等のために困難な状況で生きる子どもたちを支える活動を行う、世界最大規模の国際NGOです。その日本組織として、設立されたのがワールド・ビジョン・ジャパンです。



写真提供: 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金

「食べ物や水がなくて苦しんでいる、世界の子どもたちを助けたい」との思いから、公益財団法人国際開発救援財団(FIDR)とWVJが共催し実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に、2011年の東日本大震災の緊急援助募金から継続して協力しています。

全国の洋菓子店やレストランを中心に、本社、工場、菓子事業本部の各営業支店、関連会社などに募金箱を設置し、不二家グループとして実施しています。また、2023年2月にトルコ南東部で発生した大地震では、緊急援助募金にて被災地支援に取り組みしました。

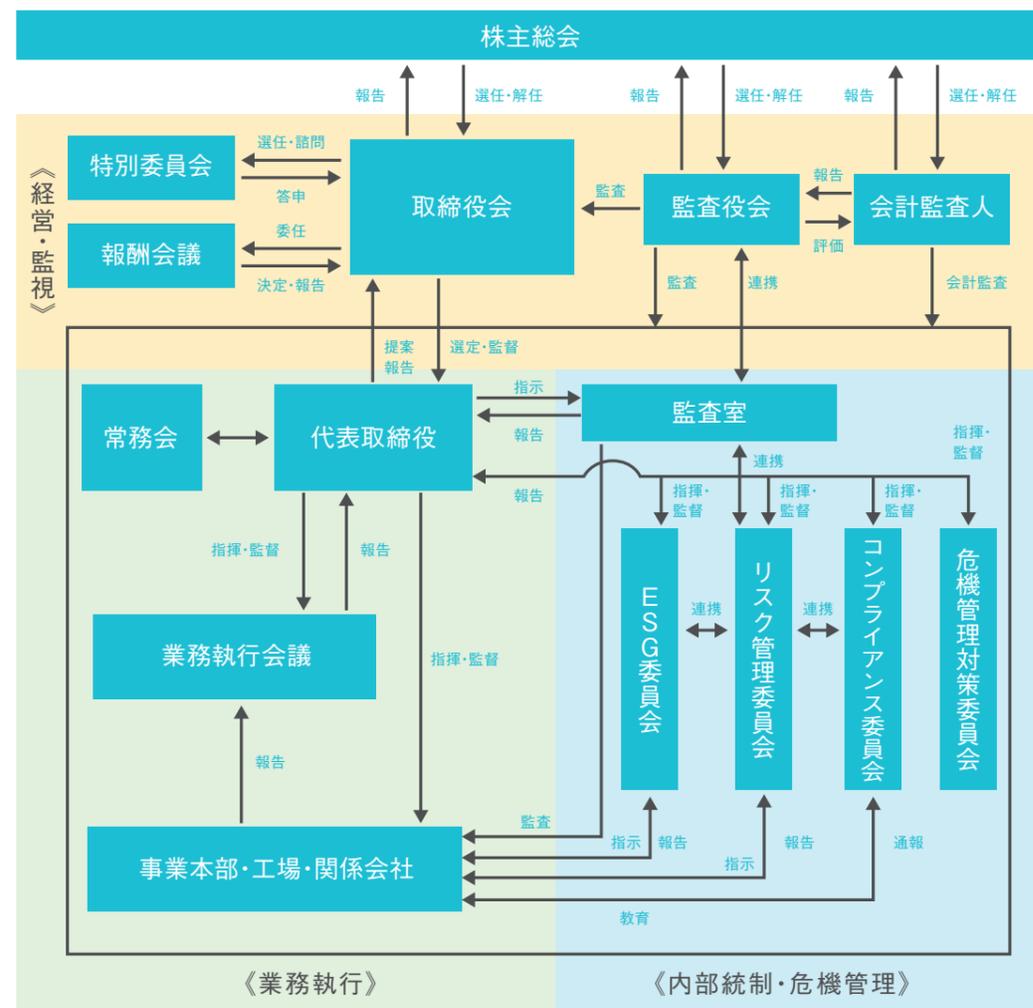


コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社及び当社グループ会社は、親会社の経営方針を尊重した企業経営を遂行いたします。そのうえで、当社「社是」及び「経営理念」に基づき、不断の努力により新しい価値と需要を創造するとともに、徹底した改善に絶え間なく取り組み、収益を確保することで、当社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。かかる目的を達するためには、株主をはじめとする全てのステークホルダーとの健全な協働関係を構築することが不可欠であると考えています。この考えのもと、当社及び当社グループ会社は、企業経営の透明性と効率性の向上を図るとともに、コンプライアンス及びリスク管理の強化を推進し、コーポレートガバナンスのさらなる充実・強化に取り組んでまいります。

●コーポレート・ガバナンス体制(模式図)



◆取締役会の活動状況

取締役会は、月1回定例開催するほか、必要に応じて適宜開催しています。当事業年度に開催された取締役会は14回であり、各役員の出席状況については次のとおりです。なお、当日の審議をより充実させるため、取締役会の開催に先立ち、社外取締役・社外監査役に対し、各回とも議案内容に関し適宜社内の取締役等から事前説明または資料の事前配布を実施しています。

氏名	役職名	出席回数	出席率
山田憲典	代表取締役会長	14回／14回	100%
飯島幹雄	取締役副会長	14回／14回	100%
河村宣行	代表取締役社長	14回／14回	100%
宮崎 広	専務取締役	14回／14回	100%
瓜生 徹	専務取締役	就任後10回／10回	100%
富永寿哉	常務取締役	14回／14回	100%
古田 健	取締役	14回／14回	100%
高橋俊裕	独立社外取締役	14回／14回	100%
中野武夫	独立社外取締役	13回／14回	93%
村岡香奈子	独立社外取締役	13回／14回	93%
酒井美紀	社外取締役	14回／14回	100%
神長善次	独立社外取締役	14回／14回	100%
中島清隆	常勤監査役	13回／14回	93%
弘中 徹	社外監査役	14回／14回	100%
佐藤元宏	独立社外監査役	14回／14回	100%

◆取締役会の実効性評価

取締役会の機能を向上させ、ひいては企業価値を高めることを目的として、毎年1回、取締役会の実効性につき、自己評価・分析を行っています。

項目	
自己評価・分析の方法	2024年1月にすべての取締役及び監査役を対象にアンケートを実施し、2024年3月の取締役会において、当該結果についての分析・評価を行いました。
評価結果	取締役会の構成、運営、モニタリング機能等について概ね肯定的な評価が得られており、取締役会全体の実効性は確保されていると認識いたしました。
今後の取り組み	2023年度の実効性評価の結果から、「社外役員の意見交換の機会提供の継続実施」及び「外部セミナー等の受講機会提供の検討」を課題として共有いたしました。今後、当社の取締役会では本実効性評価を踏まえ、課題について十分検討を行ったうえで迅速に対応し、取締役会の機能を高める取り組みを継続的に進めてまいります。

◆役員報酬決定方針

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

「取締役の個人別の報酬等の内容決定に関する方針」(以下、「決定方針」といいます)を取締役会で決議しています。決定方針の内容は以下のとおりです。

当社は、多様で優秀な人材を確保するために、同業種他社及び他業種同規模他社の報酬水準を参酌しつつ、当社の持続的成長及び中長期的な企業価値向上に資するよう、適切な報酬水準とすることを基本としています。取締役の報酬は、取締役報酬規程及び取締役報酬規程附則に基づき、社外取締役以外の取締役については、役位に応じた固定報酬(年俸制・月例現金報酬)のみで構成されており、経営成績及び取締役の業績等を勘案して、年俸を見直すこととしています。社外取締役の報酬は固定報酬(年俸制・月例現金報酬)のみとしています。

取締役の報酬額は、株主総会で認められた報酬額の枠内で、取締役会から委任を受けた報酬会議により定めています。報酬会議は、会長、社長及び総務人事本部長により構成され、事前に独立社外取締役に意見を聴取したうえで、取締役個々人の報酬額を決定し、決定内容を取締役会に報告することとしています。

監査役の報酬に関する事項

監査役の報酬額は、株主総会で認められた報酬額の枠内で、監査役の協議により個々の報酬額を決定しています。

●役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の週類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役(社外取締役を除く)	271	271	—	—	—	8
監査役(社外監査役を除く)	21	21	—	—	—	2
社外役員	96	96	—	—	—	7

(注)取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与相当額は含んでおりません。

◆特別委員会の活動状況

当社の少数株主の利益保護を目的として独立役員のうち3名を構成員とする常設の特別委員会を設置しており、当該委員会において親会社との重要な取引及び行為について、取引・行為の必要性、合理性及び条件の相当性を含め、審議・検討を行っています。

●主な審議・検討内容

回	開催月	主な審議・検討内容
第1回	2023年 4月	・委員長選任 ・2023年4月時点での親会社との取引の内容及び継続して行う当該取引の内容について
第2回	2023年 9月	・2023年1月～6月までの親会社との取引の内容及び継続して行う当該取引の内容について

●当事業年度の出席状況

役職名	氏名	出席回数	出席率
独立社外取締役	村岡香奈子(委員長)	2回/2回	100%
独立社外取締役	高橋俊裕	2回/2回	100%
独立社外監査役	佐藤元宏	2回/2回	100%

◆2023年度内部統制システムの整備運用状況

企業会計審議会の示す内部統制の基本的枠組みに準拠して、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を制定及び随時見直しを図り、内部統制の整備・運用を行っています。2015年5月1日に「会社法の一部を改正する法律」(平成26年法律第90号)及び「会社法施行規則等の一部を改正する省令」(平成27年法務省令第6号)が施行されたこととともない、2015年7月29日開催の取締役会において「内部統制システムの整備に関する基本方針」の改定を決議し、改定しました。それに基づき、企業集団の業務の適正と監督及び監査の実効性を確保するため、グループ会社すべての会社に派生するリスクに対して、今まで以上にあらゆる可能性を認識し対応できるよう体制を強化し、内部統制システムを運用しています。

また、財務報告に係る内部統制についても、内部統制の基本的枠組みに準拠して整備運用していますが、財務報告への影響を勘案し、重要な虚偽記載の発生可能性がある事象に関しては個別に対応しています。

2023年度におきましては、再度システムを見直し、財務報告の信頼性を高め、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を選定し、その中で自己点検や独立的評価を適正に実施しました。今後も、業務の適正を確保するために、あらゆるリスクを想定し体制をさらに強化することにより、内部統制の有効性を確保し企業としての社会的責任を果たしていきます。

リスクマネジメント体制

「リスク管理規程」に基づき、事業におけるさまざまなリスクに対して、事前にリスクの特定・分類・分析・評価を行い、適切に対応するための「リスク管理委員会」を設置し、年4回開催しています。「リスク管理委員会」は代表取締役社長を委員長として、委員会において進捗のモニタリングを行い、審議内容や検討状況は必要に応じて取締役会に報告することで、リスク管理全般の統制管理を行っています。

◆情報セキュリティ対策

情報資産を過失、事故、災害、犯罪などの脅威から守り、社会とお客様の信頼に応えるため、情報セキュリティ管理規程を定めています。業務遂行上必要な情報資産について、適切なセキュリティ対策を講じ、不正アクセス、漏洩、改ざん、紛失・毀損などが発生しないよう予防を図っています。

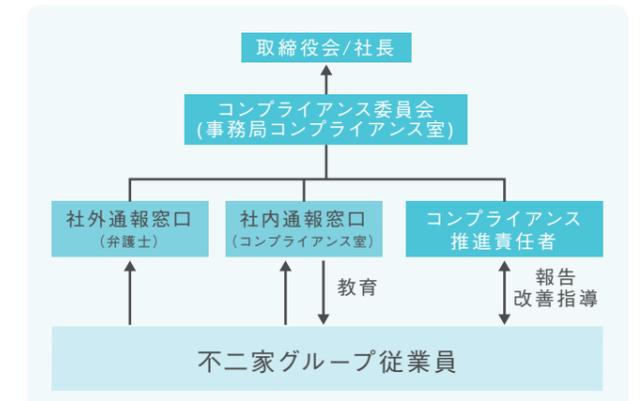
問題が顕在化した際には、速やかに是正するように組織と体制を定め、その役割と責任者を明確にしています。また、関連諸規程並びに情報セキュリティ体制の評価と見直しを定期的・継続的に行い、適切に管理しています。

コンプライアンス

◆コンプライアンスに対する考え方

コンプライアンスを経営の基盤及び重要課題と考え、公正かつ誠実な企業活動を行い、社会に対する責任を積極的に果たしています。社会からの要請に応えるべく、コンプライアンスを「単なる法令遵守にとどめず、社内規程・ルールを守ることに加え、社会倫理にも適合していくこと」と捉え、企業価値向上を目指しています。コンプライアンス活動を不二家グループ全体で徹底、推進していくため、取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、全社的な方針の制定、事故発生時の原因調査と再発防止策の策定などを行い、その結果を必要に応じて社長、取締役会に報告及び提案しています。コンプライアンス室ではコンプライアンスについての意識付けや啓蒙教育を継続的に実施しています。また、内部通報(コンプライアンス・ヘルプライン)制度を導入し、当グループの社会的信頼の維持及び業務運営の公正性の確保に努めています。

●不二家グループ コンプライアンス体制図



	2021年実績	2022年実績	2023年実績
内部通報件数	15件	20件	18件

◆内部通報(コンプライアンス・ヘルプライン)制度

不二家グループ各社内の法令違反などの未然防止と早期発見及び是正を目的として、内部通報(コンプライアンス・ヘルプライン)制度を導入しています。この制度は、不二家グループ各社内の事案や行動が、社内規程・法令・ルール等に違反するかどうかなど、コンプライアンスに関する相談窓口としても機能しています。

この制度を従業員が利用できるよう、全従業員に企業理念や連絡窓口を記載したコンプライアンスヘルプラインカードを配布しており、社内だけでなく、外部弁護士への連絡窓口を設けることで、通報や相談がしやすい環境作りにも努めています。

役員一覧

●役員一覧(2024年3月31日現在)

氏名	役職名	担当及び重要な兼職の状況
山田憲典	代表取締役会長	
飯島幹雄	取締役副会長	山崎製パン株式会社代表取締役副社長 株式会社東ハト代表取締役会長
河村宣行	代表取締役社長	不二家(杭州)食品有限公司董事長 B-Rサーティワンアイスクリーム株式会社取締役
宮崎 広	専務取締役	経営企画、総務人事、経理担当
瓜生 徹	専務取締役	洋菓子事業本部、菓子事業本部、購買、Eコマース担当 洋菓子事業本部長
富永寿哉	常務取締役	キャラクター・ライセンス担当、菓子事業本部長
古田 健	取締役	海外事業担当、菓子事業本部生産本部長
高橋俊裕	独立社外取締役	ITbookホールディングス株式会社社外取締役
中野武夫	独立社外取締役	東京建物株式会社社外取締役
村岡香奈子	独立社外取締役	弁護士、日本光電工業株式会社社外取締役
酒井美紀	社外取締役	
神長善次	独立社外取締役	株式会社東ハト社外監査役
中島清隆	常勤監査役	
弘中 徹	社外監査役	弁護士、弁護士法人弘中総合法律事務所代表社員
佐藤元宏	独立社外監査役	公認会計士、公認会計士佐藤元宏事務所所長

●取締役のスキル・マトリックス

氏名	知識・経験・能力等									
	企業経営	財務会計	人事労務	総務法務	営業	生産	食品衛生	労働安全	グローバル	社会貢献
山田憲典	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
飯島幹雄	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
河村宣行	●		●	●	●	●	●	●	●	●
宮崎 広		●	●	●						
瓜生 徹					●	●		●	●	
富永寿哉					●	●				
古田 健						●	●		●	
高橋俊裕	●		●		●	●				
中野武夫	●	●		●	●					
村岡香奈子				●					●	
酒井美紀									●	●
神長善次		●							●	●

◆会社の概要(2023年12月31日現在)

商号 株式会社不二家 (FUJIYA CO., LTD.)
 設立年月日 1938(昭和13)年6月30日
 本店所在地 〒112-0012
 東京都文京区大塚二丁目15番6号
 資本金 182億8,014万円
 従業員数 正社員1,329名

◆主要事業所及び関係会社(2023年12月31日現在)

●事業所

本社

洋菓子事業本部 店舗オペレーション部(関東エリア/
北海道エリア/東北エリア/中部エ
リア/関西エリア/九州エリア)/
広域営業部/フードサービス部

菓子事業本部 広域営業部/北海道・東北統括部/
首都圏統括部/中部統括部/
近畿・中四国統括部/九州統括部

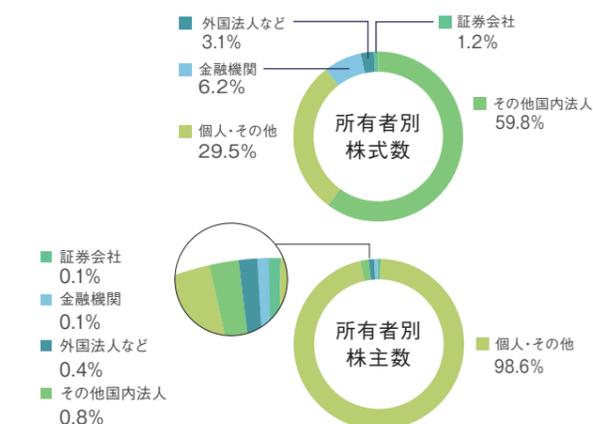
海外事業部/輸出営業部

生産工場 埼玉工場/野木工場/泉佐野工場
/吉野ヶ里工場/札幌工場/山形
工場/平塚工場/富士裾野工場/
秦野工場

事業内容 菓子・商品・アイスクリームなどの製品卸売
洋菓子販売チェーン店・喫茶及び飲食店の
経営
不動産事業他

◆株式情報(2023年12月31日現在)

●株式の分布状況



●株式及び主要株主の状況

発行可能株式総数 40,000,000 株
 発行済株式の総数 25,775,880 株※
 単元株式数 100 株
 株主数 50,455 名
 (前期末差 4,129名増加)

●関係会社

洋菓子事業 ●株式会社ダロワイヨジャパン
●株式会社不二家神戸
●B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

製菓事業 ●不二家乳業株式会社
●株式会社不二家福島
●不二家(杭州)食品有限公司
●日本食材株式会社
不二家ベトナム CO., LTD.

その他の事業 ●株式会社不二家システムセンター
不二家テクノサービス株式会社
テクノ保険サービス株式会社

※テクノ保険サービス株式会社は、2024年2月1日付けで不二家保険サービス株式
会社へ社名変更いたしました。
●連結子会社 ●持分法適用関連会社

●大株主

株主名(大株主)	持株数(株)	持株比率
山崎製パン株式会社	14,021,300	54.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,082,900	4.2
不二家不二栄会持株会	866,500	3.3
株式会社バンダイナムコホールディングス	500,000	1.9
藤井林太郎	127,444	0.4
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	125,000	0.4
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	124,996	0.4
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	115,400	0.4
損害保険ジャパン株式会社	98,466	0.3
SMBC日興証券株式会社	82,000	0.3

※発行済株式の総数及び持株比率は、自己株式(8,779株)を控除して計算しております。

編集方針

不二家では、ステークホルダーの皆様に向け、毎年CSR報告書を発行し、
 テーマごとの活動内容を報告してきました。本年からは、当社がサステナビ
 リティ経営を推進するにあたり、すべてのステークホルダーの皆様へサステナ
 ビリティ方針に則った個々のテーマに対する取り組みについてご理解いた
 だくことを目的に、サステナビリティレポートを発行しました。本報告書を通じ
 て、自然環境、社会課題解決など、中長期的な企業価値創造に向けた活動
 をご理解いただければ幸いです。

報告対象範囲

原則として不二家単体を報告範囲としています。
 期間:2023年1月~2023年12月